

2017（平成29）年

沖縄県感染症発生動向調査事業報告書

沖縄県保健医療部地域保健課  
沖縄県衛生環境研究所

## はじめに

沖縄県の感染症発生動向調査事業の推進につきましては、一般社団法人沖縄県医師会をはじめ、定点医療機関など関係者の皆様方に多大なご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施しており、感染症の発生動向を継続的に把握し、その分析を行い、情報を公表することによって、感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

さて、国内では冬季に流行するインフルエンザですが、本県では夏季にも患者が増加することが知られています。平成28～29年のシーズンは、平成28年10月26日のインフルエンザ注意報発令後も患者は急増せず、警報基準を越えないまま平成29年4月19日に注意報解除となりました。しかし解除後も患者報告は途切れず、6月には報告が増加に転じ、7月19日には本県では5年ぶりとなる夏季での注意報発令となりました。8月16日には注意報解除となりましたが、改めて本県の感染症発生状況は国内とは異なること、そして、常日頃からの手洗いや咳エチケットといった感染対策が重要であることが示されました。

また平成29年9月には、平成28年末に宮古保健所管内で亡くなられた方の死亡要因がつつが虫病であると診断されました。宮古保健所管内ではつつが虫病、沖縄本島内では日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）といった病原体を持つダニに刺咬されることにより感染する感染症が確認されています。本県は観光客を含め、野外での活動機会が多いことから、県民並びに関係機関へ注意喚起を行うなど、対策を進めているところです。

本県としましては、引き続き関係機関と連携を図りながら、患者情報等の収集・解析・情報還元を積極的に行うとともに、本事業の推進と感染症対策の強化に努めて参ります。関係機関の皆様方には、今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

沖縄県保健医療部地域保健課長

## 目 次

感染症法における届出対象疾患一覧	1
I 事業の概要	3
(1) 保健所別定点数（県内）	4
(2) 報告週対応表（2017年）および定点種別定点数（全国）	5
(3) 感染症発生動向調査事業定点医療機関一覧（県内）	6
II 報告の概要	7
1 全数把握感染症（一～五類:83疾患）の報告状況	
(1) 結核 (2) つつが虫病 (3) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (4) 梅毒	7
2 五類定点把握感染症（週報19疾患、月報7疾患）の報告状況	
(1) 週報	
ア インフルエンザ / 小児科定点	8
イ 眼科/基幹定点	8
(2) 月報	
ア 性感染症(STD) / 基幹定点	9
3 週別患者発生状況	
(1) 報告数一覧表（沖縄県）	11
(2) 報告数一覧表（全国）	11
(3) グラフ一覧（沖縄県）	12
(4) グラフ一覧（全国）	15
4 月別患者発生状況	
(1) グラフ一覧（沖縄県）	18
(2) 報告数一覧表（沖縄県）	18
(3) グラフ一覧（全国）	19
(4) 報告数一覧表（全国）	19
III 定点把握対象 五類感染症（週報・月報）発生状況	
1 週報	
（インフルエンザ/小児科定点）	
インフルエンザ	21
RSウイルス感染症	24
咽頭結膜熱（プール熱）	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28
感染性胃腸炎	30
水痘	32
手足口病	34
伝染性紅斑	36
突発性発疹	38
百日咳	40
ヘルパンギーナ	42
流行性耳下腺炎	44

(眼科定点)	
急性出血性結膜炎	46
流行性角結膜炎	48

(基幹定点)	
細菌性髄膜炎	50
無菌性髄膜炎	52
マイコプラズマ肺炎	54
クラミジア肺炎	56
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	58

## 2 月報

### (性感染症(STD)定点)

性器クラミジア感染症	60
性器ヘルペスウイルス感染症	60
尖形コンジローマ感染症	60
淋菌感染症	60
疾患別患者報告数の年次推移	61
性別・年齢別患者報告数	62

### (基幹定点(薬剤耐性菌))

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症	64
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症	66
薬剤耐性緑膿菌感染症	68

## IV 資料編

### 1 各表

表1 疾病分類別報告数(沖縄県)	71
表2 疾病分類別報告数(全国)	74
表3 疾病別、年齢別区分による比較(週報・沖縄県)	77
表4 疾病別、年齢別区分による比較(月報・男女)	78
表5 疾病別、年齢別区分による比較(月報・男性)	78
表6 疾病別、年齢別区分による比較(月報・女性)	79

### 2 全数把握感染症(全医療機関報告・2017年1月1日～12月31日)

(1) 一類感染症	80
(2) 二類感染症	80
(3) 三類感染症	93
(4) 四類感染症	95
(5) 五類感染症	99

### 3 定点把握対象 五類感染症（週報および月報）

感染症発生動向調査システム 警報・注意報の解説	109
-------------------------	-----

#### (1) 週報

##### (インフルエンザ/小児科定点)

インフルエンザ	110
R S ウイルス感染症	112
咽頭結膜熱（プール熱）	114
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116
感染性胃腸炎	118
水痘	120
手足口病	122
伝染性紅斑	124
突発性発疹	126
百日咳	128
ヘルパンギーナ	130
流行性耳下腺炎	132

##### (眼科定点)

急性出血性結膜炎	134
流行性角結膜炎	136

##### (基幹定点)

細菌性髄膜炎	138
無菌性髄膜炎	140
マイコプラズマ肺炎	142
クラミジア肺炎	144
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	146

#### (2) 月報

##### (性感染症(STD)定点)

性器クラミジア感染症	148
性器ヘルペスウイルス感染症	149
尖圭コンジローマ感染症	150
淋菌感染症	151

##### (基幹定点(薬剤耐性菌))

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症	152
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症	153
薬剤耐性緑膿菌感染症	154

### 4 病原体検出状況

表1 年別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2015-2017年）	155
表2 月別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2017年）	156
表3 検出病原体一覧（沖縄県：2017年）	157

## V 参考資料

結核の発生動向（2017年）	159
腸管出血性大腸菌感染症の発生動向（2017年）	161
侵襲性肺炎球菌感染症の発生動向	164
後天性免疫不全症候群（HIV感染者／AIDS患者）の発生動向	166
梅毒の発生動向	168

# 感染症法における届出対象疾患一覧

(平成28年2月15日現在)

## 1 医師による届出対象疾患

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」

### 一類

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| (1) エボラ出血熱      | (5) ペスト     |
| (2) クリミア・コンゴ出血熱 | (6) マールブルグ病 |
| (3) 痘そう         | (7) ラッサ熱    |
| (4) 南米出血熱       |             |

### 二類

- |   |   |
|---|---|
| (8) 急性灰白髄炎(ポリオ)   | (12) 中東呼吸器症候群<br>(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る) |
| (9) 結核  | (13) 鳥インフルエンザ(H5N1)                                   |
| (10) ジフテリア  | (14) 鳥インフルエンザ(H7N9)                                   |
| (11) 重症急性呼吸器症候群<br>(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) |   |

### 三類

- |                  |            |
|------------------|------------|
| (15) コレラ         | (18) 腸チフス  |
| (16) 細菌性赤痢       | (19) パラチフス |
| (17) 腸管出血性大腸菌感染症 |            |

### 四類

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| (20) E型肝炎   | (41) デング熱                    |
| (21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)                         | (42) 東部ウマ脳炎                  |
| (22) A型肝炎   | (43) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) |
| (23) エキノコックス症                                       | (44) ニバウイルス感染症               |
| (24) 黄熱   | (45) 日本紅斑熱                   |
| (25) オウム病   | (46) 日本脳炎                    |
| (26) オムスク出血熱  | (47) ハンタウイルス肺症候群             |
| (27) 回帰熱  | (48) Bウイルス病                  |
| (28) キャサヌル森林病                                       | (49) 鼻疽                      |
| (29) Q熱   | (50) ブルセラ症                   |
| (30) 狂犬病  | (51) ベネズエラウマ脳炎               |
| (31) コクシジオイデス症                                      | (52) ヘンドラウイルス感染症             |
| (32) サル痘  | (53) 発しんチフス                  |
| (33) ジカウイルス感染症                                      | (54) ボツリヌス症                  |
| (34) 重症熱性血小板減少症候群<br>(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る) | (55) マラリア                    |
| (35) 腎症候性出血熱  | (56) 野兔病                     |
| (36) 西部ウマ脳炎   | (57) ライム病                    |
| (37) ダニ媒介脳炎   | (58) リッサウイルス感染症              |
| (38) 炭疽   | (59) リフトバレー熱                 |
| (39) チクングニア熱  | (60) 類鼻疽                     |
| (40) つつが虫病  | (61) レジオネラ症                  |
|   | (62) レプトスピラ症                 |
|   | (63) ロッキー山紅斑熱                |

### 五類 全数把握対象

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| (64) アメーバ赤痢   | (74) 侵襲性髄膜炎菌感染症 *直ちに届出            |
| (65) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)   | (75) 侵襲性肺炎球菌感染症                   |
| (66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症   | (76) 水痘<br>(患者が入院を要すると認められるものに限る) |
| (67) 急性脳炎<br>(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) | (77) 先天性風しん症候群                    |
| (68) クリプトスポリジウム症  | (78) 梅毒                           |
| (69) クロイツフェルト・ヤコブ病  | (79) 播種性クリプトコックス症                 |
| (70) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症   | (80) 破傷風                          |
| (71) 後天性免疫不全症候群   | (81) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症          |
| (72) ジアルジア症   | (82) バンコマイシン耐性腸球菌感染症              |
| (73) 侵襲性インフルエンザ菌感染症   | (83) 風しん                          |
|   | (84) 麻しん *直ちに届出                   |
|   | (85) 薬剤耐性アシネトバクター感染症              |

診断後直ちに届出

全数報告

七日以内に届出

## 五類 定点把握対象

週報・月報報告

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <p>週報・小児科定点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(86) RSウイルス感染症</li> <li>(87) 咽頭結膜熱</li> <li>(88) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</li> <li>(89) 感染性胃腸炎</li> <li>(90) 水痘</li> <li>(91) 手足口病</li> <li>(92) 伝染性紅斑</li> <li>(93) 突発性発しん</li> <li>(94) 百日咳</li> <li>(95) ヘルパンギーナ</li> <li>(96) 流行性耳下腺炎</li> </ul> | <p>基幹定点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(97) インフルエンザ*1<br/>(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)</li> </ul> | <p>眼科定点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(98) 急性出血性結膜炎</li> <li>(99) 流行性角結膜炎</li> </ul> | <p>週報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(100) クラミジア肺炎(オウム病を除く)</li> <li>(101) 細菌性髄膜炎<br/>(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)</li> <li>(102) マイコプラズマ肺炎</li> <li>(103) 無菌性髄膜炎</li> <li>(104) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る)</li> <li>(105) 性器クラミジア感染症</li> <li>(106) 性器ヘルペスウイルス感染症</li> <li>(107) 尖圭コンジローマ</li> <li>(108) 淋菌感染症</li> <li>(109) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症</li> <li>(110) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症</li> <li>(111) 薬剤耐性緑膿菌感染症</li> </ul> |
|--|---|---|---|

\*1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)の基幹定点の届出対象は入院したのもの  
\*2 (86)感染性胃腸炎のうち、病原体がロタウイルスであるものを基幹定点から届け出る

定点報告

## 新型インフルエンザ等感染症

(112) 新型インフルエンザ

(113) 再興型インフルエンザ

## 指定感染症

該当なし

## 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

- (114) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)
- (115) 発熱及び発疹又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

届出は管轄保健所へ

## 2 獣医師による届出対象疾患と動物

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第13条第1項の規定に基づく届出の基準について」

### 感染症法第13条に基づく獣医師が届出を行う感染症と動物

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) エボラ出血熱(サル)</li> <li>(2) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る(イタチアナグマ、タヌキ及びハクビシン))</li> <li>(3) ペスト(プレリドッグ)</li> <li>(4) マールブルグ病(サル)</li> <li>(5) 細菌性赤痢(サル)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(6) ウエストナイル熱(鳥類に属する動物)</li> <li>(7) エキノコックス症(犬)</li> <li>(8) 結核(サル)</li> <li>(9) 鳥インフルエンザ(H5N1またはH7N9(鳥類に属する動物))</li> <li>(10) 中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)</li> </ul> |
|--|--|

届出は管轄保健所へ

# I 事業の概要

## I 事業の概要

沖縄県は 1980 年 7 月から県医師会および定点医療機関の協力のもとに全県的な感染症の報告体制を構築し、疾患の流行状況の把握に努めるべく感染症サーベイランス事業を、厚生省（現厚生労働省）より早く開始した。

厚生省は、1981 年 7 月から感染症の実態を的確に把握するために全国的な感染症サーベイランス事業を開始した。さらに、1987 年 1 月から新たに「結核・感染症サーベイランス事業」となり、全国の保健所、都道府県（指定都市）、厚生省（現厚生労働省）間がコンピュータオンラインシステムで結ばれ、結核および感染症の情報が迅速かつ的確に利用できるようになった。

感染症サーベイランス事業は、1998 年より感染症発生動向調査事業となり、さらに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」とする。）が 1999 年 4 月から施行され、感染症対策の強化が行われてきた。

2006 年 4 月には、新しい全国オンラインシステムである感染症サーベイランスシステム（NESID）が稼働している。

2017 年末までに届出対象となる感染症は、一類感染症 7 疾患、二類感染症 7 疾患、三類感染症 5 疾患、四類感染症 44 疾患、五類感染症 48 疾患（全数 22 疾患、定点把握 26 疾患）、新型インフルエンザ等が 2 疾患、指定感染症 0 疾患（該当なし）、法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症が 2 疾患の計 115 疾患である。

これらの感染症は、患者発生状況を医療機関が所管保健所に報告し、各保健所からの報告を県健康長寿課（2017 年 4 月から地域保健課。以下同じ。）で集約して国に報告している。感染症情報の迅速な提供を図るための施設として感染症情報センターが衛生環境研究所に設置され、データ収集及び提供を行っている。県健康長寿課および各保健所においては、感染症情報センターで処理された集計データおよび全国の還元データを利用し、各関係機関に情報提供をするとともに、感染症の流行状況の把握を行っている（次頁「感染症発生動向調査事業～患者情報の流れ～」を参照）。

また、衛生環境研究所では、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い、得られた結果を各関係機関に情報提供しているが、2016 年 4 月の感染症法の一部改正法の施行に伴い、病原体情報の収集体制が強化された。

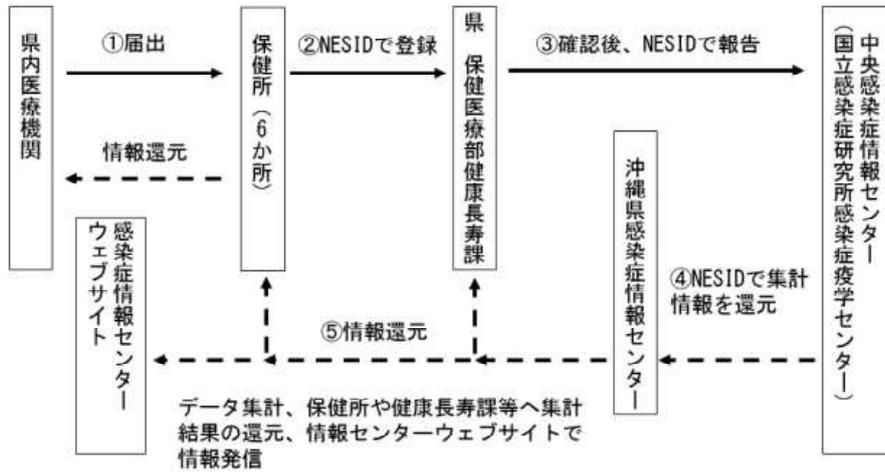
〔沖縄県感染症情報センター ウェブサイト〕

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

（定点医療機関）

2017 年末時点の県内の定点医療機関は、小児科 34 定点、インフルエンザ 58 定点（同小児科 34 定点＋内科 24 定点）、眼科 9 定点、性感染症 12 定点、基幹 7 定点の合計 86 定点である。

## 感染症発生動向調査事業 ～患者情報の流れ～



(1) 県内の保健所別定点数 (2017年12月31日時点)

保健所名	小児科 定点 (ア)	内科 定点 (イ)	インフル エンザ定点 (ア)+(イ)	眼科 定点	性感染症 (STD) 定点	基幹 定点	医療 機関数
①北部保健所	3	2	5	1	1	1	5
②中部保健所	12	8	20	2	4	2	23
③那覇市保健所	7	5	12	1	3	1	10
④南部保健所	8	6	14	3	4	1	16
⑤宮古保健所	2	2	4	1	0	1	5
⑥八重山保健所	2	1	3	1	0	1	3
合計	34	24	58	9	12	7	62

## (2) 報告週対応表 (2017年) および定点種別定点数(全国)

月	週	平均 期間	週 報				月 報	
			インフルエ ンザ定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点	STD定点	基幹定点
			4944	3157	695	477	988	479
1月	1	1/2 ~ 1/8	4934	3145	686	477	990	479
	2	1/9 ~ 1/15	4960	3166	696	478		
	3	1/16 ~ 1/22	4963	3165	695	478		
	4	1/23 ~ 1/29	4963	3162	694	478		
	5	1/30 ~ 2/5	4963	3166	696	478		
2月	6	2/6 ~ 2/12	4962	3164	694	478	989	480
	7	2/13 ~ 2/19	4964	3165	693	478		
	8	2/20 ~ 2/26	4967	3168	694	478		
	9	2/27 ~ 3/5	4965	3169	696	478		
3月	10	3/6 ~ 3/12	4963	3166	694	476	988	480
	11	3/13 ~ 3/19	4946	3158	694	477		
	12	3/20 ~ 3/26	4958	3165	694	475		
	13	3/27 ~ 4/2	4959	3167	696	477		
4月	14	4/3 ~ 4/9	4955	3164	695	476	983	480
	15	4/10 ~ 4/16	4955	3163	695	478		
	16	4/17 ~ 4/23	4957	3165	697	478		
	17	4/24 ~ 4/30	4949	3158	693	478		
5月	18	5/1 ~ 5/7	4943	3154	692	477	989	480
	19	5/8 ~ 5/14	4961	3169	698	478		
	20	5/15 ~ 5/21	4952	3166	697	477		
	21	5/22 ~ 5/28	4947	3167	698	478		
	22	5/29 ~ 6/4	4950	3167	697	478		
6月	23	6/5 ~ 6/11	4948	3162	696	478	987	480
	24	6/12 ~ 6/18	4941	3160	697	477		
	25	6/19 ~ 6/25	4942	3160	697	477		
	26	6/26 ~ 7/2	4948	3161	697	478		
7月	27	7/3 ~ 7/9	4942	3162	697	477	991	479
	28	7/10 ~ 7/16	4905	3152	694	478		
	29	7/17 ~ 7/23	4944	3162	695	476		
	30	7/24 ~ 7/30	4946	3164	695	478		
	31	7/31 ~ 8/6	4940	3159	698	477		
8月	32	8/7 ~ 8/13	4825	3099	680	477	989	480
	33	8/14 ~ 8/20	4842	3077	689	478		
	34	8/21 ~ 8/27	4917	3133	696	478		
	35	8/28 ~ 9/3	4946	3158	697	478		
9月	36	9/4 ~ 9/10	4946	3160	696	478	991	479
	37	9/11 ~ 9/17	4932	3154	697	477		
	38	9/18 ~ 9/24	4933	3156	695	478		
	39	9/25 ~ 10/1	4950	3163	699	478		
10月	40	10/2 ~ 10/8	4934	3157	695	477	989	479
	41	10/9 ~ 10/15	4949	3160	698	478		
	42	10/16 ~ 10/22	4944	3161	699	478		
	43	10/23 ~ 10/29	4948	3161	698	476		
	44	10/30 ~ 11/5	4945	3159	697	478		
11月	45	11/6 ~ 11/12	4951	3161	695	478	988	480
	46	11/13 ~ 11/19	4947	3157	698	478		
	47	11/20 ~ 11/26	4957	3166	697	478		
	48	11/27 ~ 12/3	4958	3166	698	477		
12月	49	12/4 ~ 12/10	4960	3165	698	479	988	480
	50	12/11 ~ 12/17	4958	3164	698	479		
	51	12/18 ~ 12/24	4961	3169	698	479		
	52	12/25 ~ 12/31	4905	3124	689	478		

## (3) 感染症発生動向調査事業 定点医療機関一覧

平成29年12月31日現在

	保健所名	医療機関名	住 所	全 86定点	24	34	9	7	12
				(定点名)	内科	小児科	眼科	基幹	STD
1	北部保健所	県立北部病院	名護市大中2-12-3	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		儀保小児科内科医院	名護市大西2-4-32	小児科		●			
3		今帰仁診療所	今帰仁村字謝名139	小児科、内科	●	●			
4		辻眼科	名護市宮里1-26-11	眼科			●		
5		なかち泌尿器科クリニック	名護市大中5-4-50	STD(泌)					●
1	中部保健所	医療法人ユカリア沖縄 かなな病院	宜野座村字漢那469	内科	●				
2		石川医院	うるま市石川2-21-5	内科	●				
3		医療法人きんクリニック	金武町字金武94	内科	●				
4		岸本内科クリニック	沖縄市登川1-1-24	内科	●				
5		愛聖クリニック	沖縄市高原5-15-11	内科	●				
6		よなみね内科	宜野湾市普天間2-4-5	内科	●				
7		ライフクリニック長浜	読谷村字長浜1530-1	内科	●				
8		ちばなクリニック	沖縄市字知花6-25-15	小児科、内科、STD(泌)	●	●			●
9		県立中部病院	うるま市宮里281	小児科、基幹		●		●	
10		みやぎ小児科クリニック	宜野湾市我如古447	小児科		●			
11		嘉数医院	沖縄市諸見里1-26-2	小児科		●			
12		大嶺医院	うるま市田場1417	小児科		●			
13		山田小児科内科医院	うるま市石川東山1-19-11	小児科		●			
14		もりなが内科・小児科クリニック	北谷町美浜2丁目7-4	小児科		●			
15		伊元小児科医院	沖縄市字泡瀬4-39-12	小児科		●			
16		そけん小児科	読谷村字波平2459	小児科		●			
17		愛知クリニック	宜野湾市字愛知16-1	小児科		●			
18		いとむクリニック小児科	宜野湾市伊佐1-10-9	小児科		●			
19		宮里眼科	うるま市石川東山1-22-2	眼科			●		
20		ひかり眼科	宜野湾市字愛知45	眼科			●		
21		中頭病院	沖縄市知花6-25-5	基幹				●	●
22		上村病院	沖縄市胡屋1-6-2	小児科、STD(産)		●			●
23		中部徳洲会病院	北中城村アワセ土地区画整理事業地内2街区1	STD(産)					●
1	南部保健所	浦添総合病院	浦添市伊祖4-16-1	内科	●				
2		同仁病院	浦添市城間1-37-12	内科	●				
3		みゆき小児科	浦添市字前田3-3-8-103号	小児科		●			
4		たから小児科医院	浦添市大平1-36-5 おながハイツ	小児科		●			
5		ティーダこどもクリニック	浦添市城間4-3-10-1	小児科		●			
6		比嘉眼科病院	浦添市城間4-34-20	眼科			●		
7		県立南部医療センター・こども医療センター	南風原町字新川118-1	小児科、内科、基幹、STD(泌)	●	●		●	●
8		南部徳洲会病院	八重瀬町字外間171-1	内科、STD(泌)	●				●
9		豊見城中央病院	豊見城市字上田25	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
10		わんぱくクリニック	南風原町字津嘉山1674	小児科		●			
11		与那原中央病院	与那原町字与那原2905	内科	●				
12		ひめゆりクリニック	糸満市字伊原107-1	小児科		●			
13		あおぞら小児科	与那原町字上与那原340-1	小児科		●			
14		安里眼科	糸満市字潮平722	眼科			●		
15		はえばる眼科医院	南風原町字兼城725	眼科			●		
16		パークレーレディースクリニック	浦添市当山2-2-11	STD(産)					●
1	宮古保健所	県立宮古病院	宮古島市平良字東仲宗根807	小児科、基幹		●		●	
2		ひが小児科医院	宮古島市平良西里781-5	小児科		●			
3		池村内科医院	宮古島市平良字東仲宗根194	内科	●				
4		下地眼科医院	宮古島市平良下里577-1	眼科			●		
5		きしもと内科医院	宮古島市平良字下里1555-1	内科・消化器内科	●				
1	保八健重所山	県立八重山病院	石垣市字大川732	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		よしもとこどもクリニック	石垣市登野城1024-1	小児科		●			
3		宮良眼科医院	石垣市字大川140	眼科			●		
1	那覇市保健所	国場十字路医院	那覇市字仲井真272-1 鉢嶺リースビル1F	内科	●				
2		那覇市立病院	那覇市古島2-31-1	小児科、内科、基幹、STD(産)	●	●		●	●
3		沖縄赤十字病院	那覇市与儀1-3-1	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
4		沖縄協同病院	那覇市古波蔵4-10-55	小児科、内科	●	●			
5		西町クリニック	那覇市西3-4-1 アーバンビュー西町	小児科、内科	●	●			
6		かおる小児科	那覇市字国場724-3 マゾンセブン101	小児科		●			
7		宮城小児科医院	那覇市牧志2-16-5	小児科		●			
8		安謝小児科クリニック	那覇市安謝215-1 やしま産業ビル1・2F	小児科		●			
9		石川眼科医院	那覇市泉崎2-3-20	眼科			●		
10		大浜第一病院	那覇市天久1000	STD(泌)					●

## Ⅱ 報告の概要

## Ⅱ 報告の概要

2017（平成 29）年、本県での報告は、一類感染症が 0 人、二類感染症が 349 人、三類感染症が 25 人、四類感染症が 60 人、五類感染症が 52,846 人（全数把握疾患：291 人、定点把握疾患：52,555 人）の報告があり、対象感染症 115 疾患の合計 53,280 人であった。

五類感染症定点把握疾患は、週単位報告（週報）と月単位報告（月報）に大別される。週報はインフルエンザ定点、小児科定点、基幹定点報告に、月報は性感染症（STD）定点と基幹定点（薬剤耐性菌）報告に細分類される。

週報は、2017（平成 29）年 1 月 2 日～2017（平成 29）年 12 月 31 日までの 52 週分である。月報は、2017（平成 29）年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 12 ヶ月分である。

### 1 全数把握感染症（一～五類：83疾患）の報告状況

（Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及び 2 全数把握感染症（全医療機関報告）を参照）

2017 年県内で報告された全数把握感染症は 26 疾患で 725 件である。

注目された感染症は以下のとおりである。

#### （1）結核（二類感染症）

2017 年の報告数は 349 人で、前年比 0.90 とやや減少した。月別報告数に大きな変動はみられず、年代別では、成人を中心に高齢になるほど増加傾向にあり、70 歳以上で全体の 47%（163 人）と最も多く見られた。

また、家族や事業所等における結核集団感染事例が、2017 年 1 月に南部保健所管内と那覇市保健所管内に及んだ事例と、同年 2 月に南部保健所管内での事例の計 2 事例があった。

#### （2）つつが虫病（四類感染症）

2000 年以降は、年間 0、若しくは 1～2 例であったが、2015 年以降やや増加傾向にある。2017 年は 5 人で、全て宮古保健所管内からの報告であった。患者は、20 歳代から 80 歳代にかけてみられ、ツツガムシやダニ等からの感染と考えられた。

また 2017 年に入り、2016 年の報告例のうち 1 例が、同病による死亡例と確認された。

#### （3）侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）

2017 年の報告数は前年の 6 人から 26 人と大幅増となり、集計を始めた 2013 年以降最多となった。70 歳以上が 54%（14 人）を占めた。

#### （4）梅毒（五類感染症）

梅毒の報告数は 2011 年以降増加傾向にあり、2017 年は 43 人と 2000 年以降で最多となった。男性が 8 割以上を占めるが、女性の感染も 8 人（19%）と増加傾向にある。年代では 20 歳代から 40 歳代にかけて多いが、特に 20 歳代は近年増加

傾向にある。

## 2 五類定点把握感染症(週報 19 疾患、月報 7 疾患)の報告状況 (Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及びⅢ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況を参照)

### (1) 週報

#### ア インフルエンザ/小児科定点

(Ⅱ 3. (1)～(4) 報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照)

2017 年県内で報告された、インフルエンザ及び小児科定点対象の疾患を年間定点当たり患者報告数が多かった順に並べると、上位 4 疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、手足口病であった。

2017 年の本県におけるインフルエンザ患者の報告数は 33,811 人、定点あたりの報告数は 583.65 人であり、前年比 0.99 とほぼ横ばいであった。2016/2017 シーズン(2016 年第 36 週～2017 年第 35 週)に医療機関から提出されたインフルエンザウイルスの検出状況は、AH1pdm09\_5 例、AH3 亜型 91 例、B 型 45 例(ビクトリア系統 10 例、山形系統 35 例)と、AH3 亜型が流行の主流となった。

感染性胃腸炎の 2016/2017 シーズン報告数は 8,523 人、定点あたり報告数は、250.67 人で前年比 1.29 と増加し、過去 10 シーズンで最多の報告数となった。

RS ウイルス感染症の 2016/2017 シーズン報告数は 2,203 人、定点あたりの報告数は 64.79 人で、報告数は 2011/2012 シーズン以降で最多となった。

手足口病の報告数は 2,182 人、定点あたり報告数 64.18 人で前年比 0.83 と減少した。1 歳をピークに、2 歳以下までで全体の 83.2%を占めた。

#### イ 眼科/基幹定点

(Ⅱ 3. (1)～(4) 報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照)

県内の急性出血性結膜炎(AHC)の報告数は 10 人、定点あたり報告数は 1.11 人であり、前年比 0.56 と減少した。県全体で警報基準を上回ることはなかった。

流行性角結膜炎(EKF)の報告数は 1,019 人、定点あたり 113.22 人であり、前年比 1.92 と増加した。

基幹定点対象の疾患では、マイコプラズマ肺炎が最も多く報告された。流行した 2016 年から、2017 年は 154 人、定点あたり 22.00 人となり前年比 0.32 と大幅に減少した。

その他の基幹定点対象疾患では、前年に比べ増加したのがクラミジア肺炎(定点あたり報告数 0.43 人、前年比 1.48)、減少したのは、細菌性髄膜炎(定点あたり報告数 3.43 人、前年比 0.52)、無菌性髄膜炎(定点あたり報告数 10.71 人、前年比 0.77)及びロタウイルス(定点あたり報告数 12.57 人、前年比 0.88)であっ

た。

## (2) 月報

### ア 性感染症(STD)／基幹定点

(Ⅱ 4. (1)～(4) 月別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照)

2017 年県内で報告された性感染症 (STD) 定点対象疾患の報告数は、性器クラミジア感染症が 186 人 (定点あたり報告数 15.93 人、前年比 1.42)、性器ヘルペスウイルス感染症は 63 人 (定点あたり報告数 5.36 人、前年比 2.47)、尖形コンジローマが 25 人 (定点あたり報告数 2.14 人、前年比 1.40)、淋菌感染症は 40 人 (定点あたり報告数 3.46 人、前年比 1.40) であり、全ての疾患が増加した。特に女性の増加が顕著 (上記 4 疾患：2016 年計 118 人から 2017 年計 224 人) であった。

基幹定点対象疾患では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症が報告数 441 人 (定点あたり報告数 63.01 人、前年比 1.01) と最も多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) 感染症の 2017 年の報告数は 102 人 (定点あたり報告数 14.57 人、前年比 0.74) と減少するもなお、年間通して全国を上回った。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 3 人 (定点あたり報告数 0.43 人) で前年と同数であった。



### 3 週別患者発生状況

#### (1) 報告数一覧表(沖縄県)

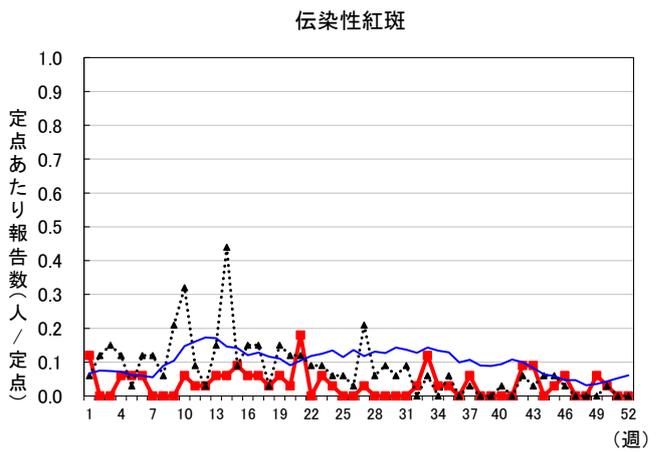
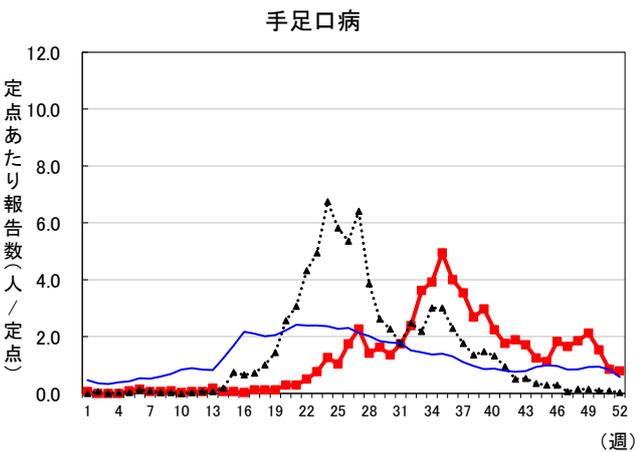
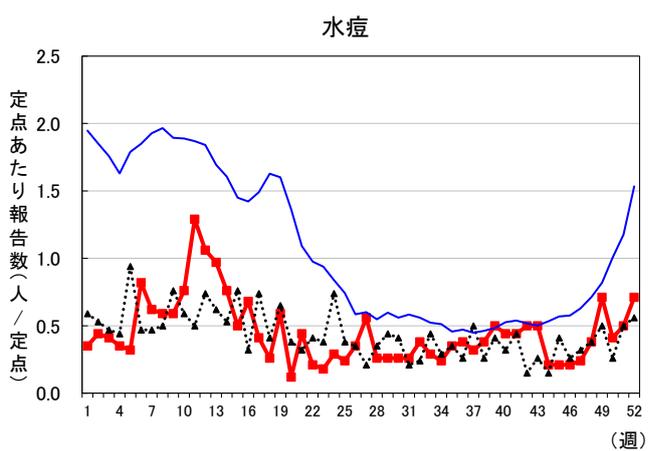
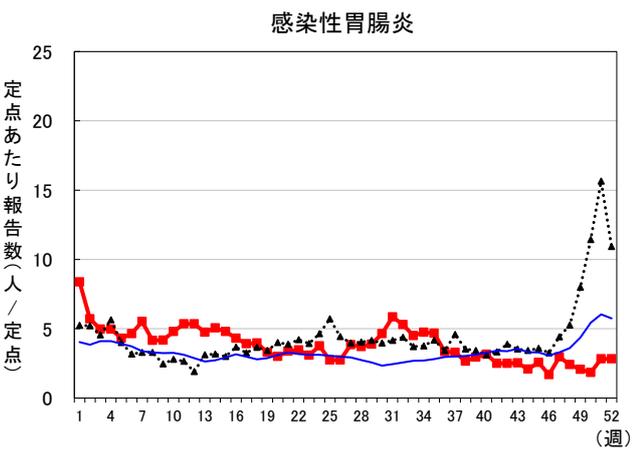
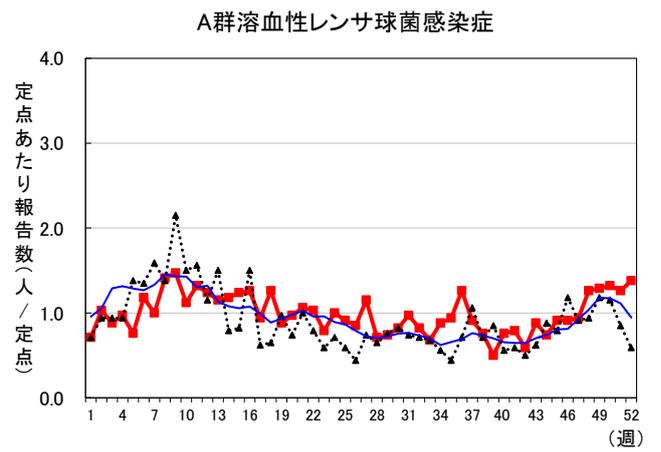
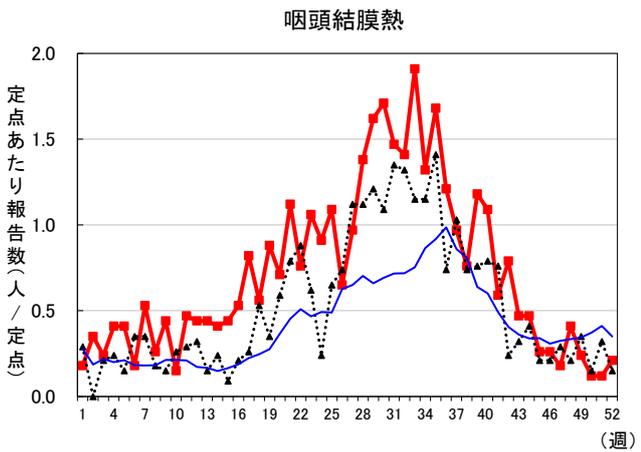
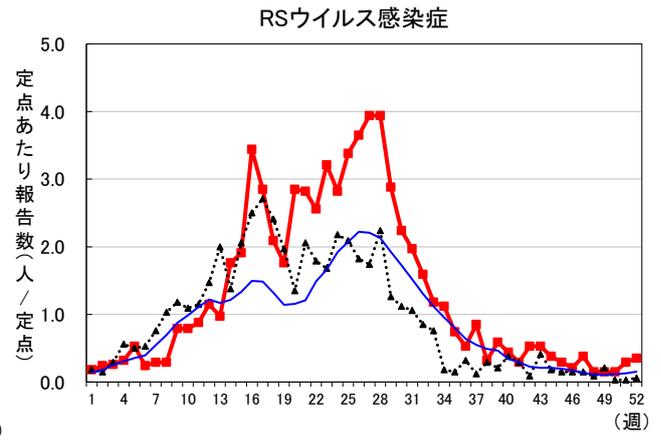
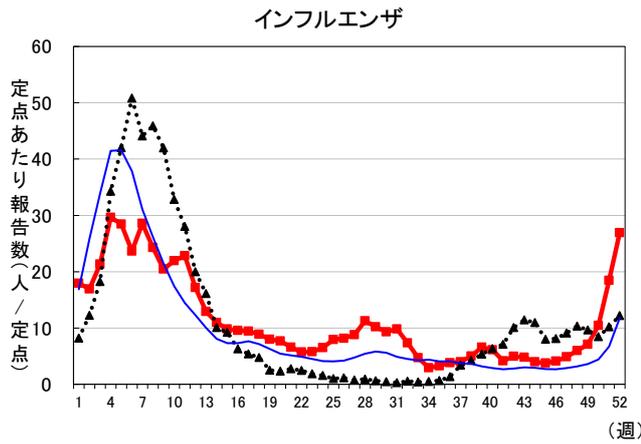
	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人/定点/週)	
		2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年
小児 科 定 点	インフルエンザ	34,064	33,811	587.31	583.65	11.29	11.22
	RSウイルス感染症	1,679	2,315	49.38	68.09	0.95	1.31
	咽頭結膜熱	938	1,266	27.58	37.24	0.53	0.72
	A群溶血性レンサ球菌感染症	1,617	1,762	47.56	51.82	0.91	1.00
	感染性胃腸炎	7,806	6,798	229.59	199.94	4.42	3.85
	水痘	779	800	22.92	23.53	0.44	0.45
	手足口病	2,627	2,182	77.27	64.18	1.49	1.23
	伝染性紅斑	138	60	4.06	1.76	0.08	0.03
	突発性発疹	480	565	14.12	16.62	0.27	0.32
	百日咳	227	124	6.68	3.65	0.13	0.07
	ヘルパンギーナ	384	416	11.30	12.24	0.22	0.24
流行性耳下腺炎	2,101	223	61.79	6.56	1.19	0.13	
眼科 定 点	急性出血性結膜炎	18	10	2.00	1.11	0.04	0.02
	流行性角結膜炎	530	1,019	58.90	113.22	1.13	2.18
基幹 定 点	細菌性髄膜炎	46	24	6.57	3.43	0.13	0.07
	無菌性髄膜炎	97	75	13.85	10.71	0.27	0.21
	マイコプラズマ肺炎	486	154	69.43	22.00	1.34	0.42
	クラミジア肺炎	2	3	0.29	0.43	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	100	88	14.29	12.57	0.27	0.24

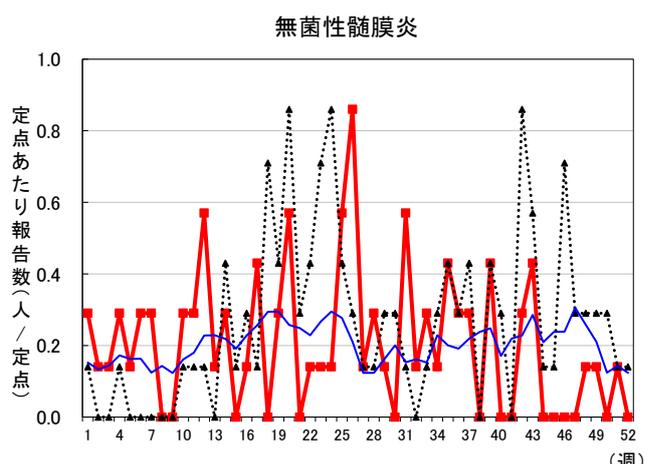
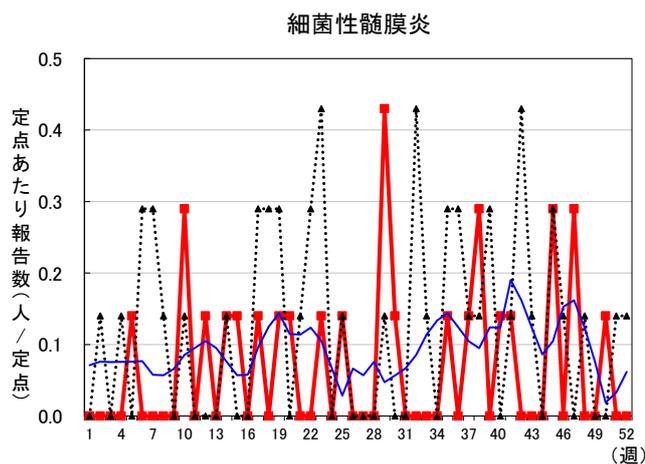
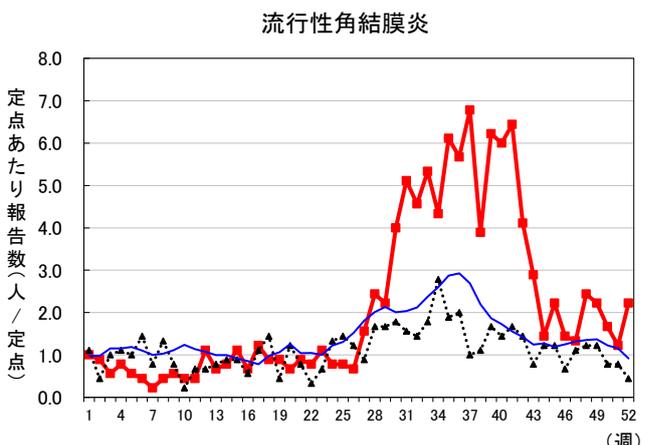
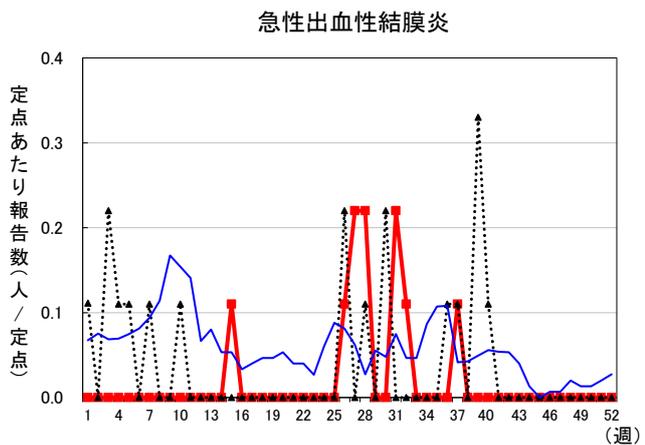
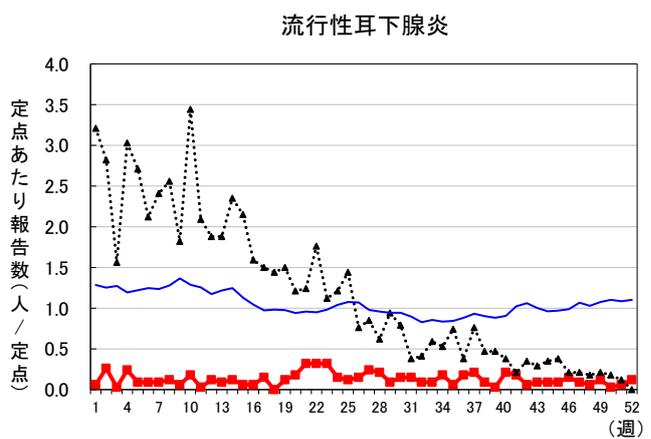
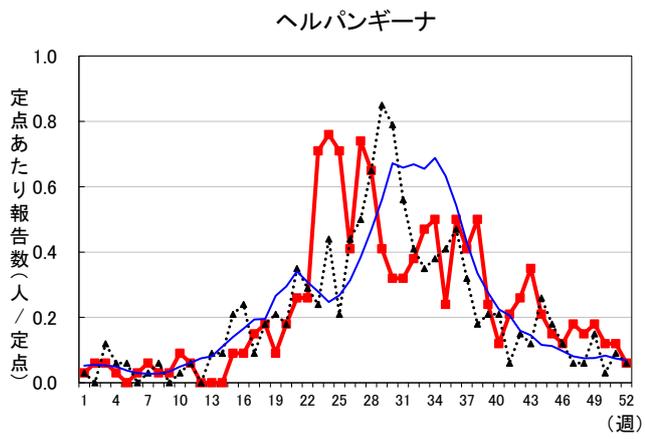
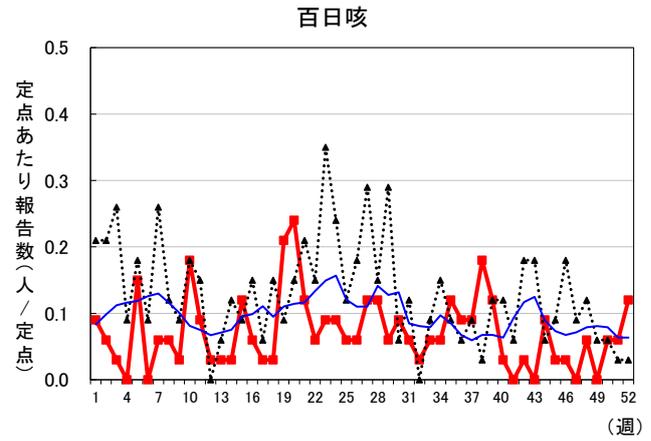
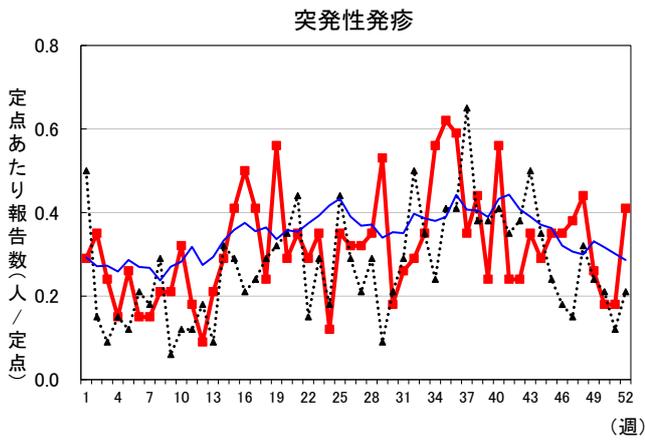
#### (2) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人/定点/週)	
		2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年
小児 科 定 点	インフルエンザ	1,751,970	1,614,999	354.58	326.66	6.82	6.28
	RSウイルス感染症	104,703	139,557	33.18	44.21	0.64	0.85
	咽頭結膜熱	67,487	92,269	21.38	29.23	0.41	0.56
	A群溶血性レンサ球菌感染症	367,815	367,325	116.54	116.35	2.24	2.24
	感染性胃腸炎	1,116,800	871,927	353.87	276.19	6.81	5.31
	水痘	65,383	60,162	20.72	19.06	0.40	0.37
	手足口病	69,139	358,806	21.91	113.65	0.42	2.19
	伝染性紅斑	51,419	12,436	16.29	3.94	0.31	0.08
	突発性発疹	76,270	73,303	24.17	23.22	0.46	0.45
	百日咳	3,011	1,661	0.95	0.53	0.02	0.01
	ヘルパンギーナ	129,371	86,045	40.99	27.26	0.79	0.52
流行性耳下腺炎	158,996	77,884	50.38	24.67	0.97	0.47	
眼科 定 点	急性出血性結膜炎	401	441	0.58	0.63	0.01	0.01
	流行性角結膜炎	26,099	26,736	37.72	38.47	0.73	0.74
基幹 定 点	細菌性髄膜炎	493	483	1.03	1.01	0.02	0.02
	無菌性髄膜炎	1,379	955	2.89	2.00	0.06	0.04
	マイコプラズマ肺炎	19,721	8,366	41.34	17.54	0.80	0.34
	クラミジア肺炎	354	263	0.74	0.55	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5,266	4,991	11.04	10.46	0.21	0.20

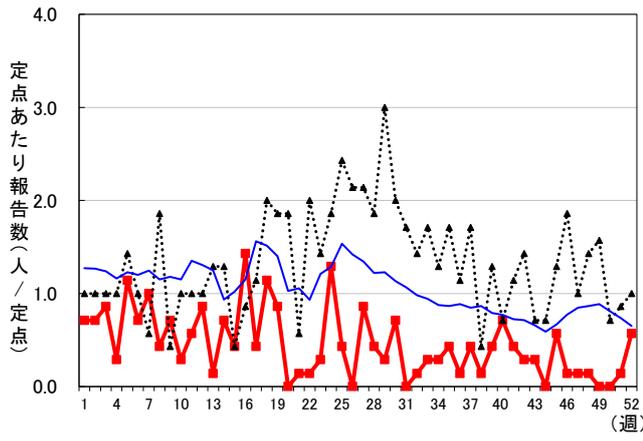
### (3) グラフ一覧(沖縄県)

— 2017年    ····· 2016年    — 過去5年間の平均  
 \*過去5年間の平均: 前週、当該週、後週の合計15週の平均

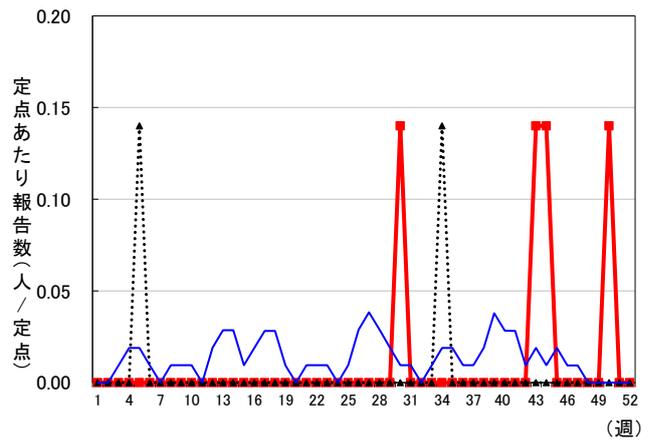




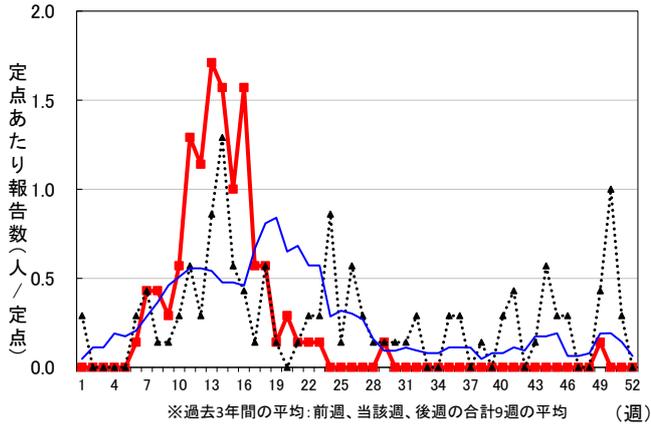
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

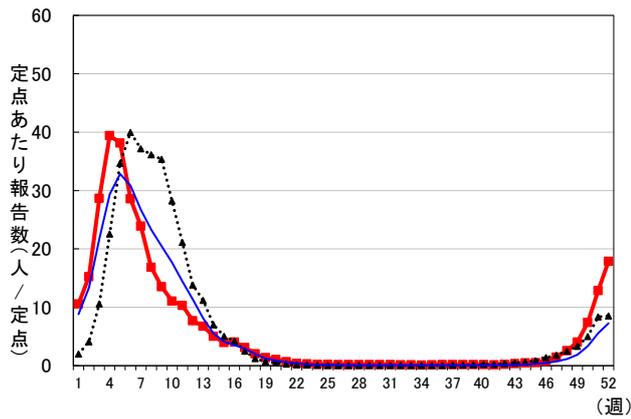


#### (4) グラフ一覧(全国)

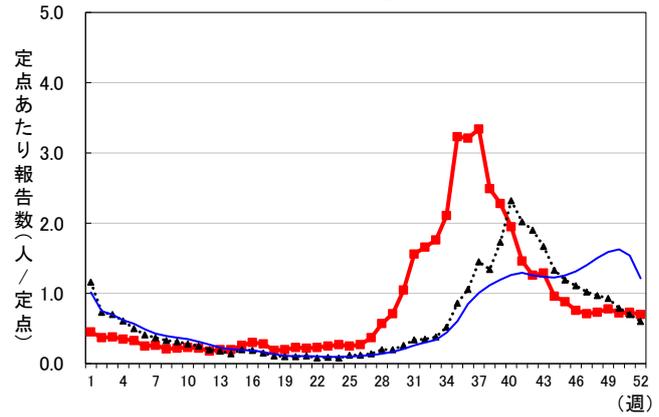
— 2017年    ····· 2016年    — 過去5年間の平均

\*過去5年間の平均: 前週、当該週、後週の合計15週の平均

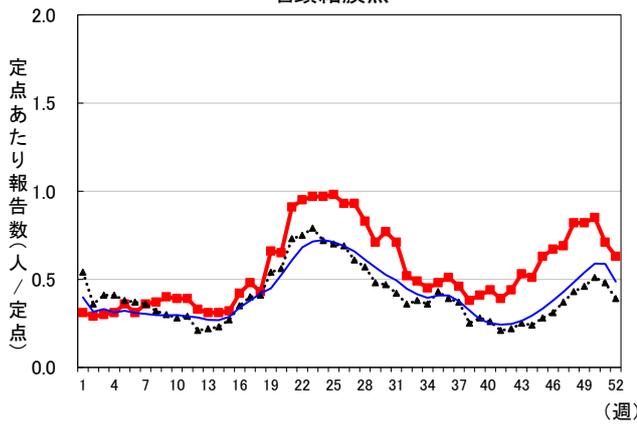
#### インフルエンザ



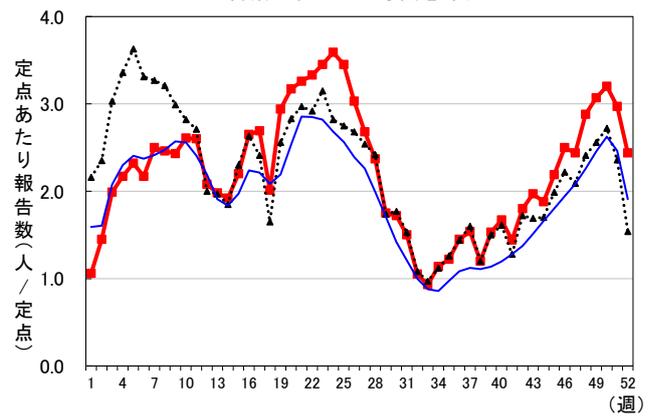
#### RSウイルス感染症



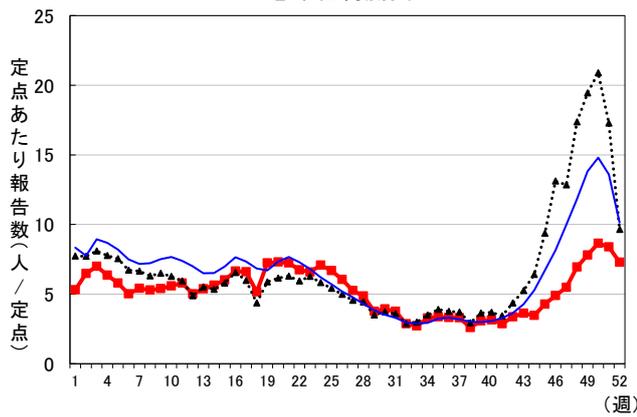
#### 咽頭結膜熱



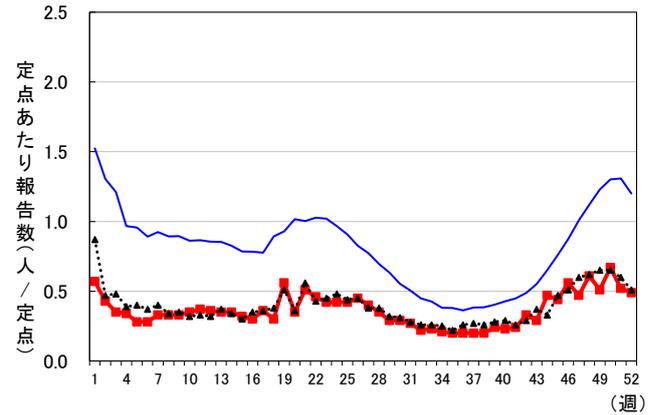
#### A群溶血性レンサ球菌感染症



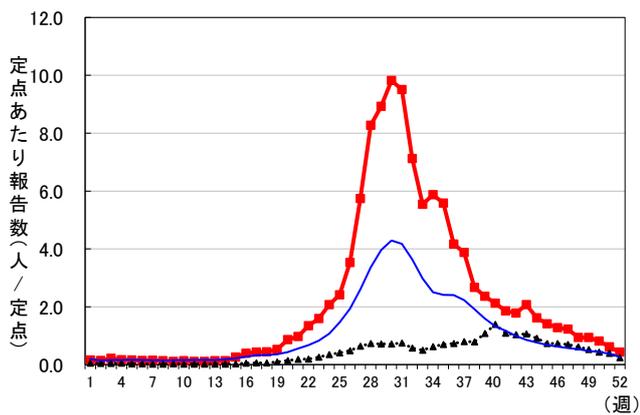
#### 感染性胃腸炎



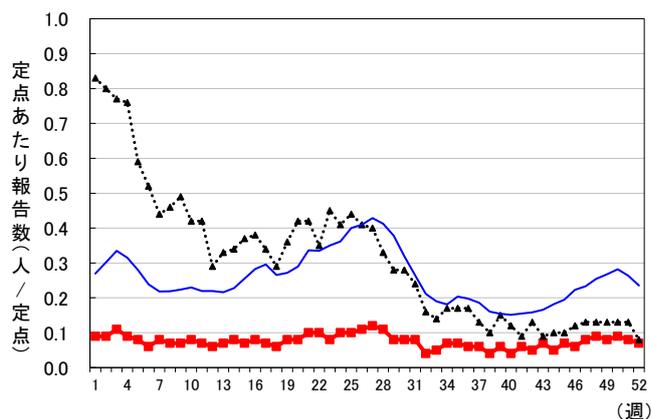
#### 水痘



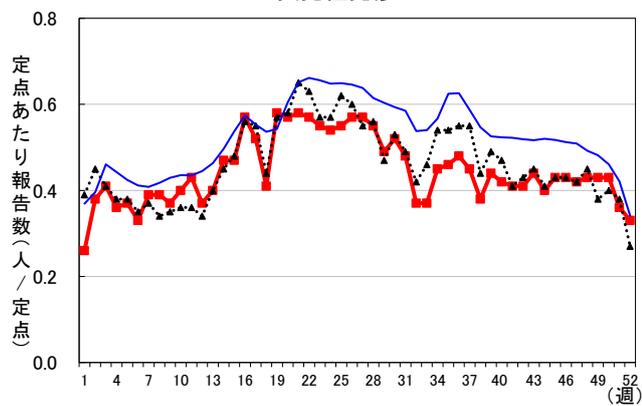
#### 手足口病



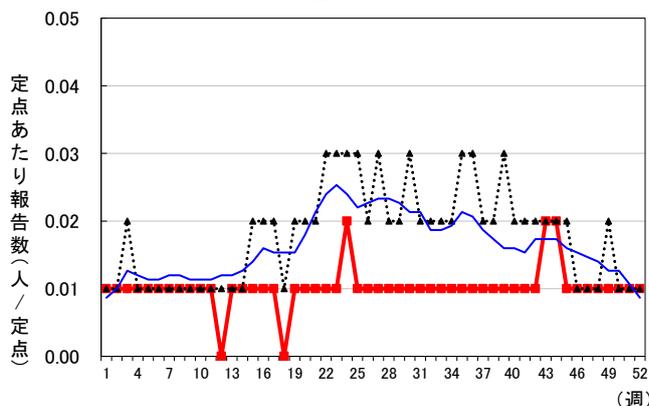
#### 伝染性紅斑



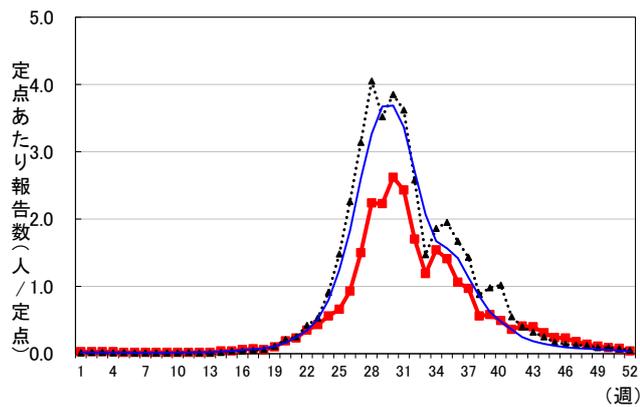
突発性発疹



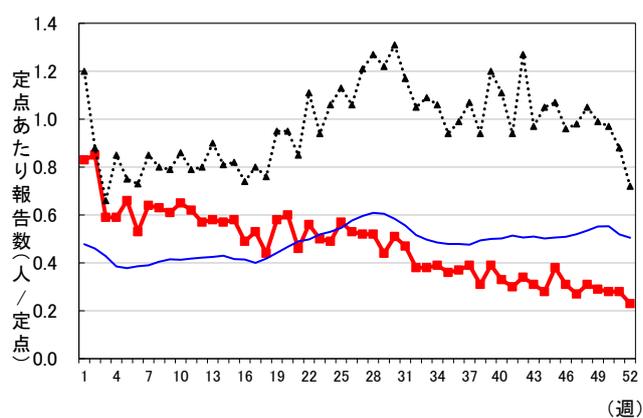
百日咳



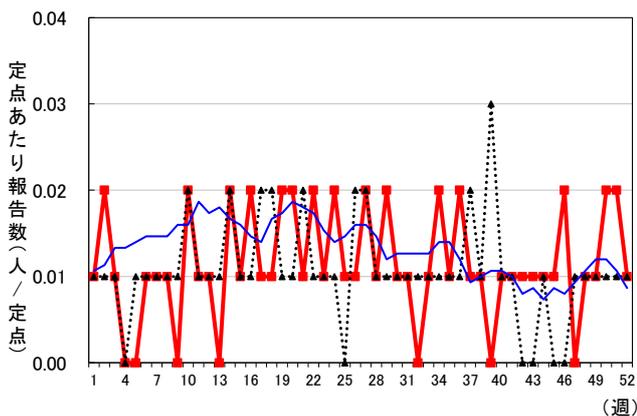
ヘルパンギーナ



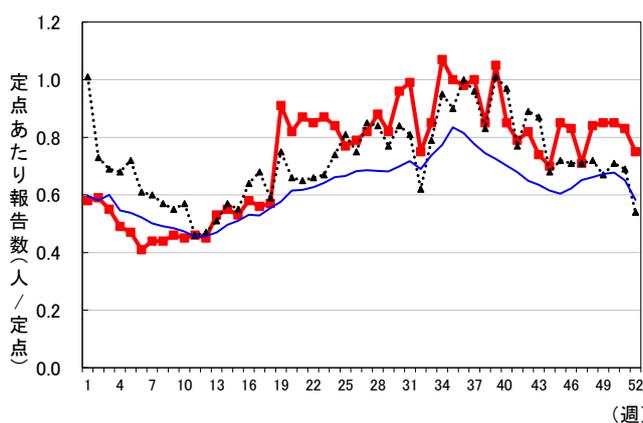
流行性耳下腺炎



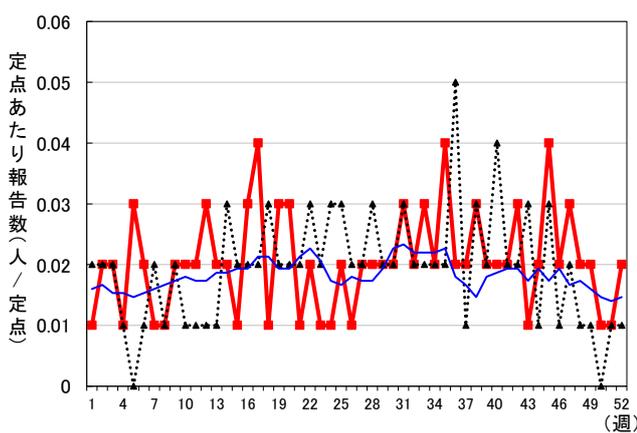
急性出血性結膜炎



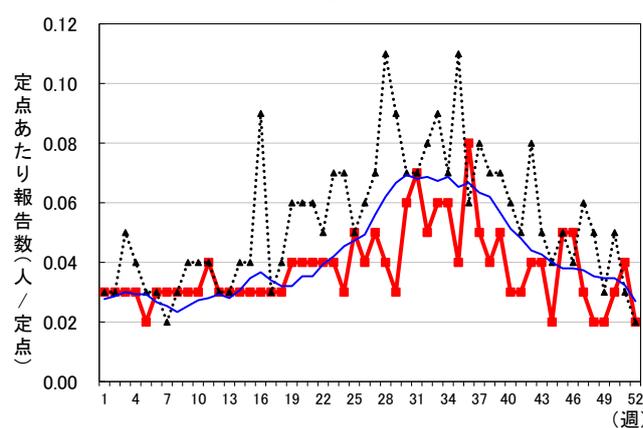
流行性角結膜炎



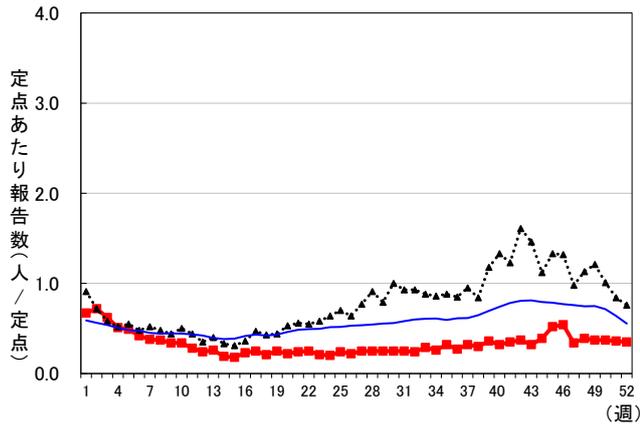
細菌性髄膜炎



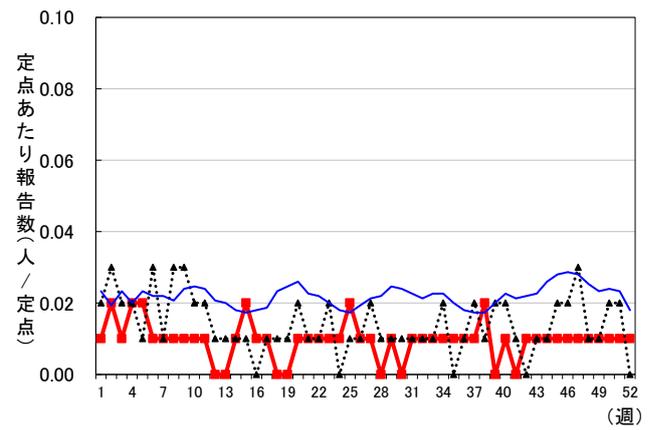
無菌性髄膜炎



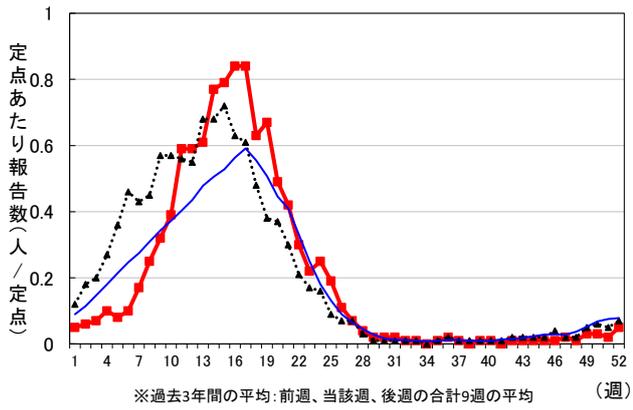
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

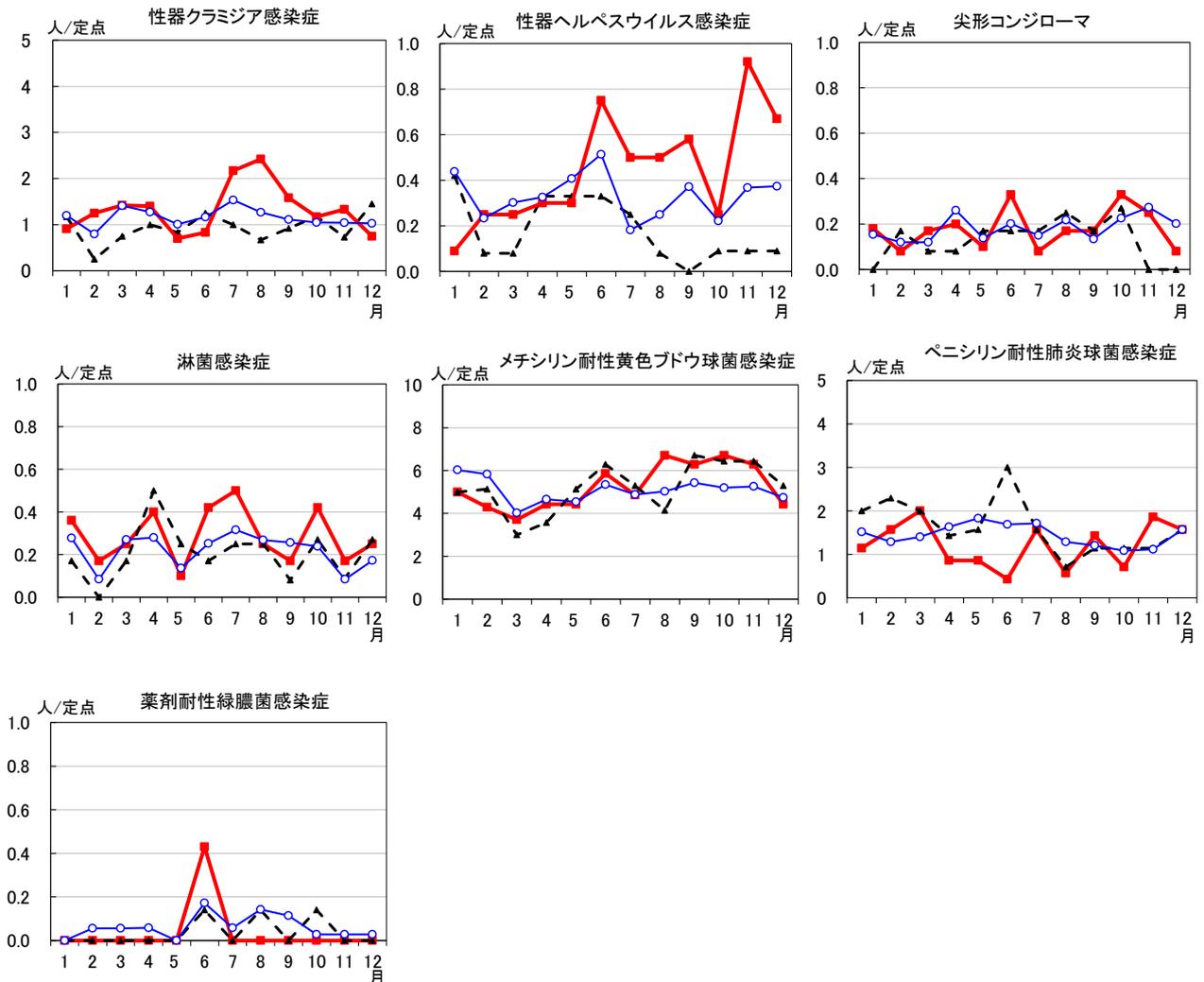


感染性胃腸炎(ロタウイルス)



## 4. 月別患者発生状況 (1) グラフ一覧(沖縄県)

—■— 2017年    - - - 2016年    —○— 過去5年間の平均

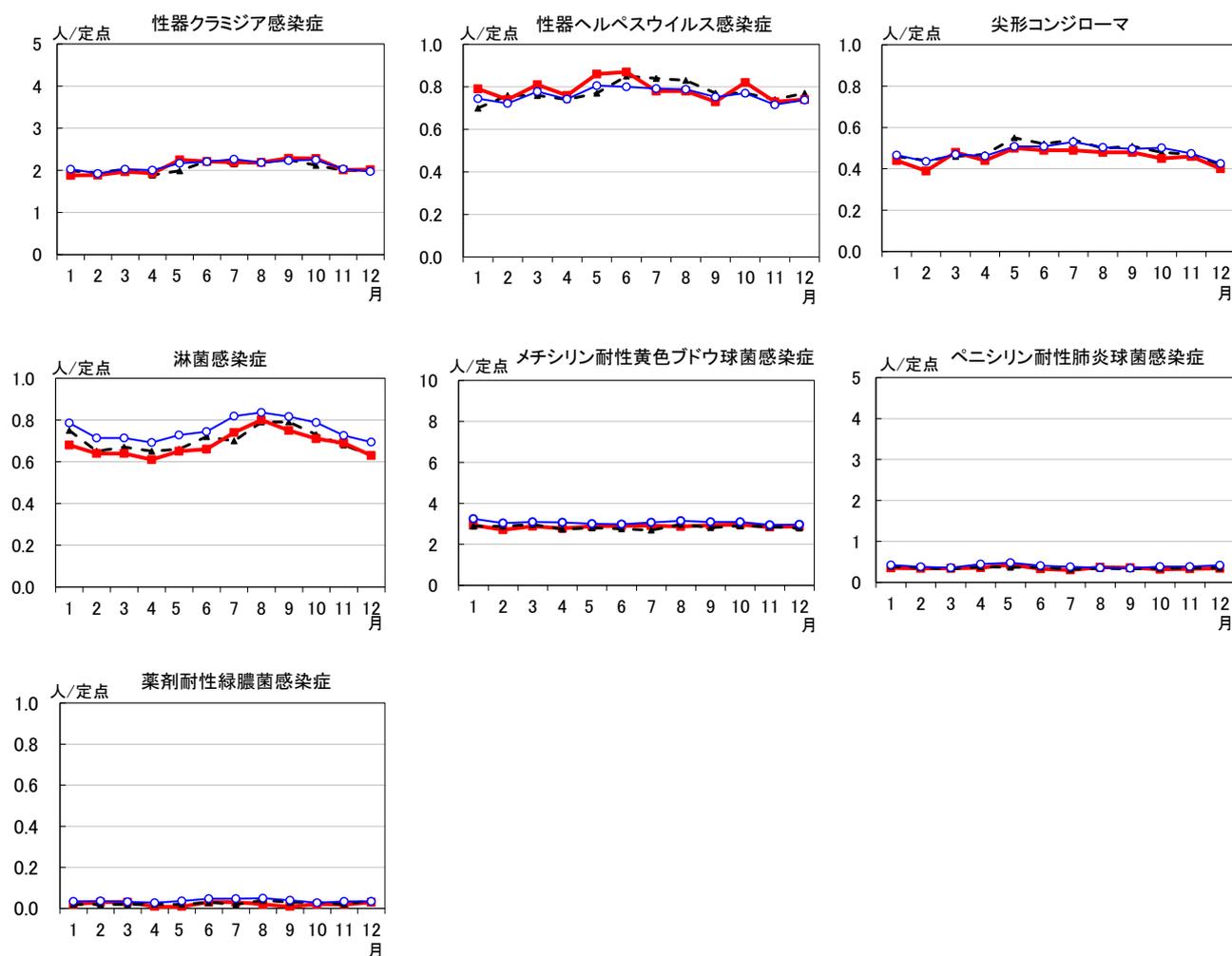


## (2) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年
STD	性器クラミジア感染症	131	186	11.20	15.93	0.93	1.33
	性器ヘルペスウイルス感染症	26	63	2.17	5.36	0.18	0.45
	尖形コンジローマ	18	25	1.53	2.14	0.13	0.18
	淋菌感染症	29	40	2.47	3.46	0.21	0.29
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	437	441	62.43	63.01	5.20	5.25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	137	102	19.56	14.57	1.63	1.21
	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	3	0.43	0.43	0.04	0.04

### (3) グラフ一覧(全国)

—■— 2017年    -▲- 2016年    ○— 過去5年間の平均



### (4) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年
STD	性器クラミジア感染症	24,397	24,825	24.77	25.13	2.06	2.09
	性器ヘルペスウイルス感染症	9,175	9,308	9.31	9.42	0.78	0.79
	尖形コンジローマ	5,734	5,437	5.82	5.50	0.49	0.46
	淋菌感染症	8,298	8,107	8.42	8.21	0.70	0.68
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16,338	16,551	34.11	34.55	2.84	2.88
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,017	2,001	4.21	4.18	0.35	0.35
	薬剤耐性緑膿菌感染症	157	128	0.33	0.27	0.03	0.02



### Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

# 1 週報 (インフルエンザ／小児科定点)

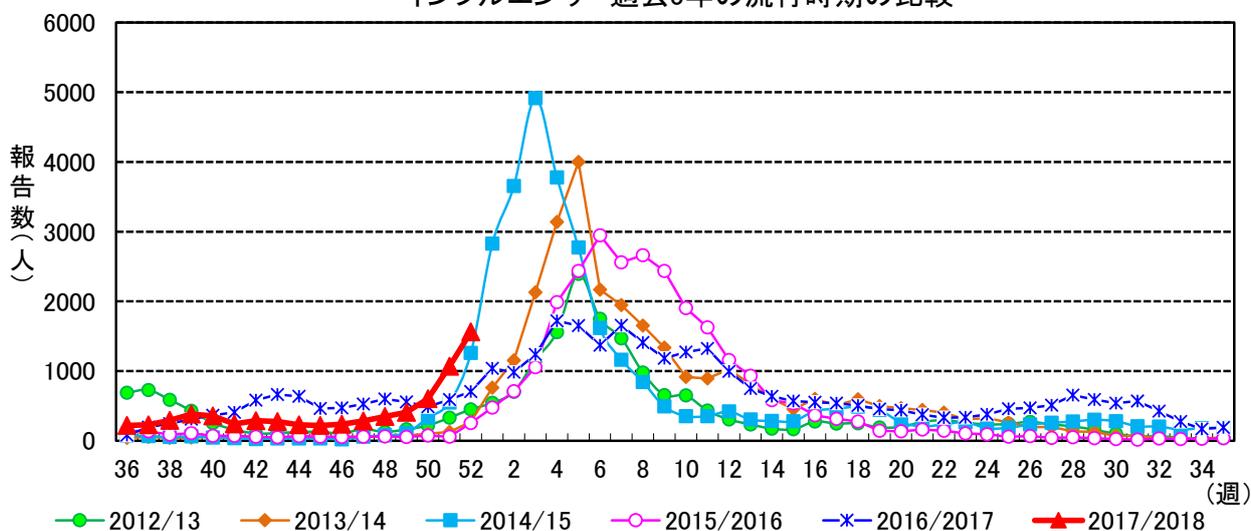
## インフルエンザ

2017年沖縄県内の患者報告数は33,811人、定点あたりの報告数は583.65人であった。沖縄県の2016/17シーズン（2016年第36週～2017年第35週）は、流行の兆しである1.0人/定点を上回った状態で始まった。2016年第42週（10月）には10.07人/定点と、例年より早く注意報基準値を超えるも、今シーズンのピークは、第4週（1月）29.66人/定点であり、警報基準値の30人/定点を上回ることにはなかった。警報基準値を超える報告週がなかったシーズンは、2007/08シーズン以降、9シーズンぶりであった。

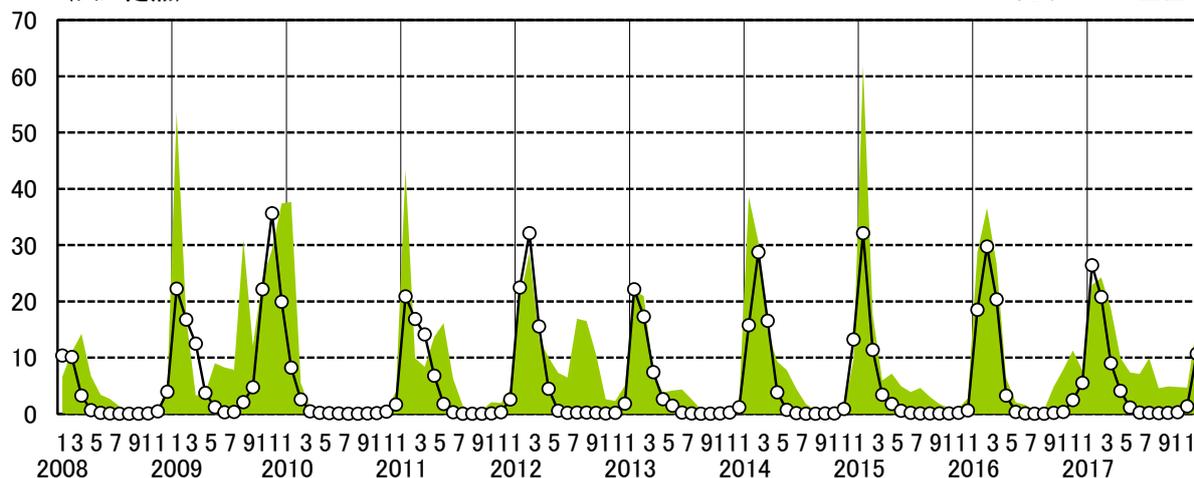
2017年の年齢階級別では、0歳から14歳までで、全体の49.4%を占めた。

2016/17シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型が91例で最も多く、以下、B型45例（うち山形系統35例、ビクトリア系統10例）、AH1 pdm5 例であった。

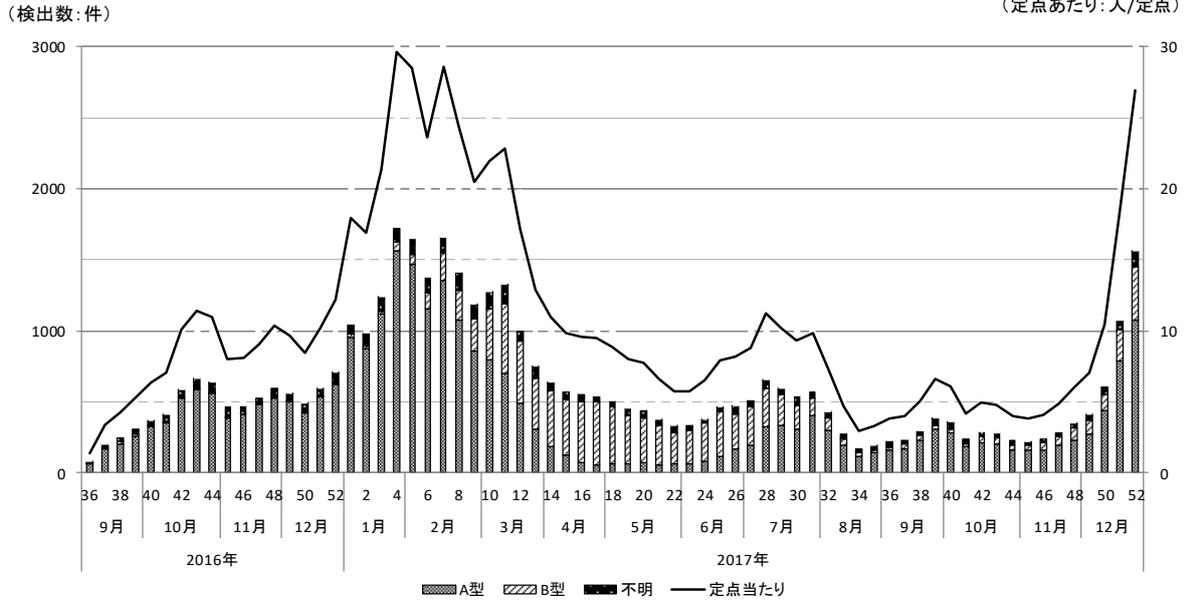
インフルエンザ 過去5年の流行時期の比較



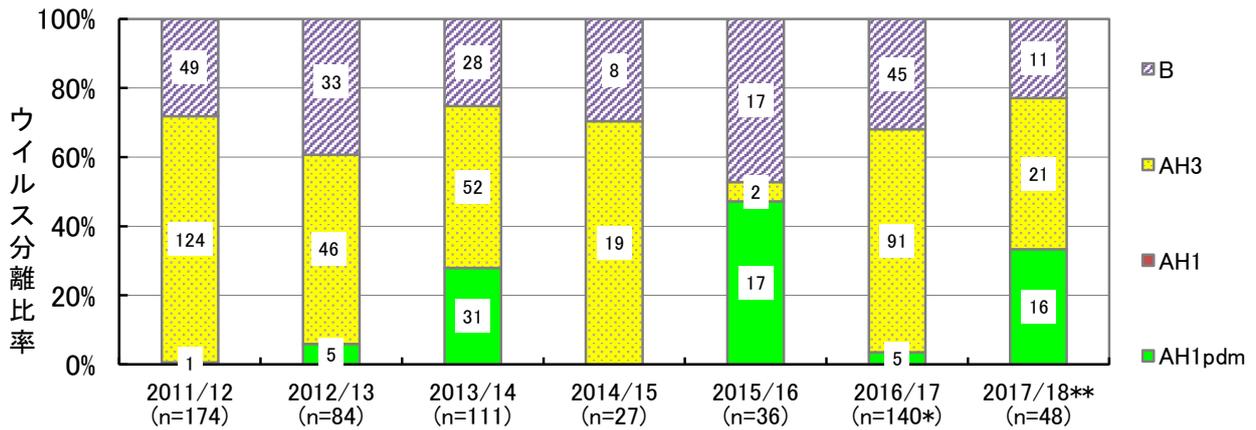
年次別患者発生状況の推移 (人/定点) 沖縄県 全国



## インフルエンザウイルス型別報告 定点医療機関(2016年第36週～2017年第52週)



### シーズン別インフルエンザウイルス検出状況(衛生環境研究所 検査分)

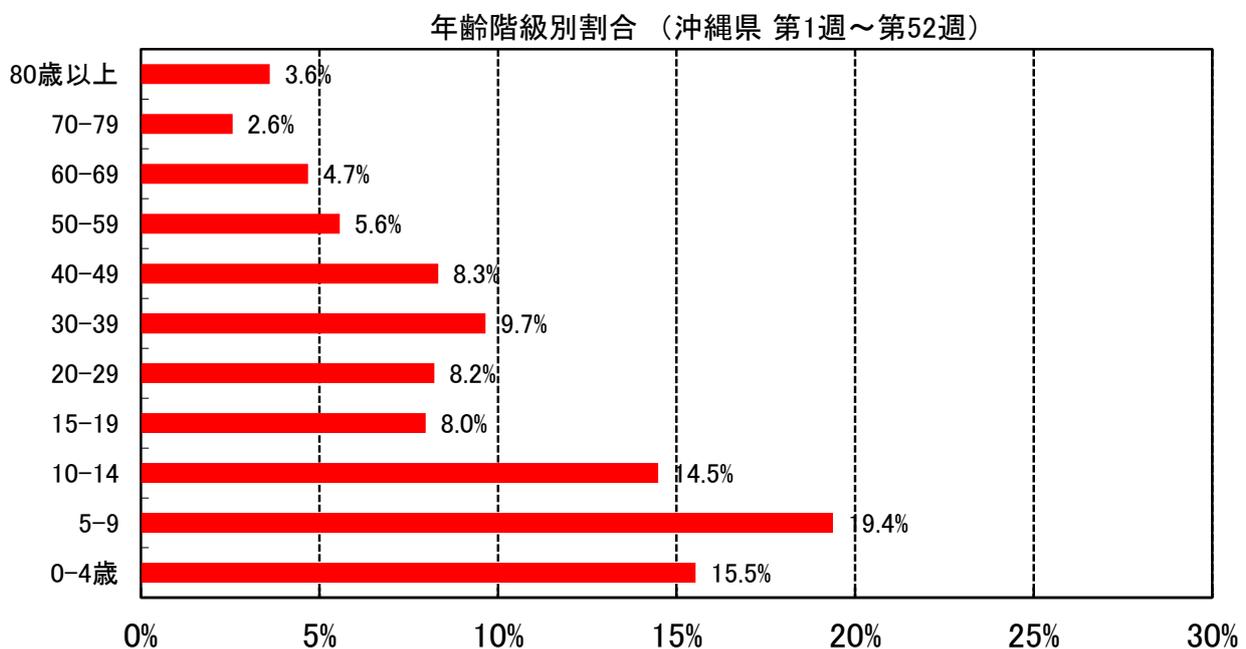
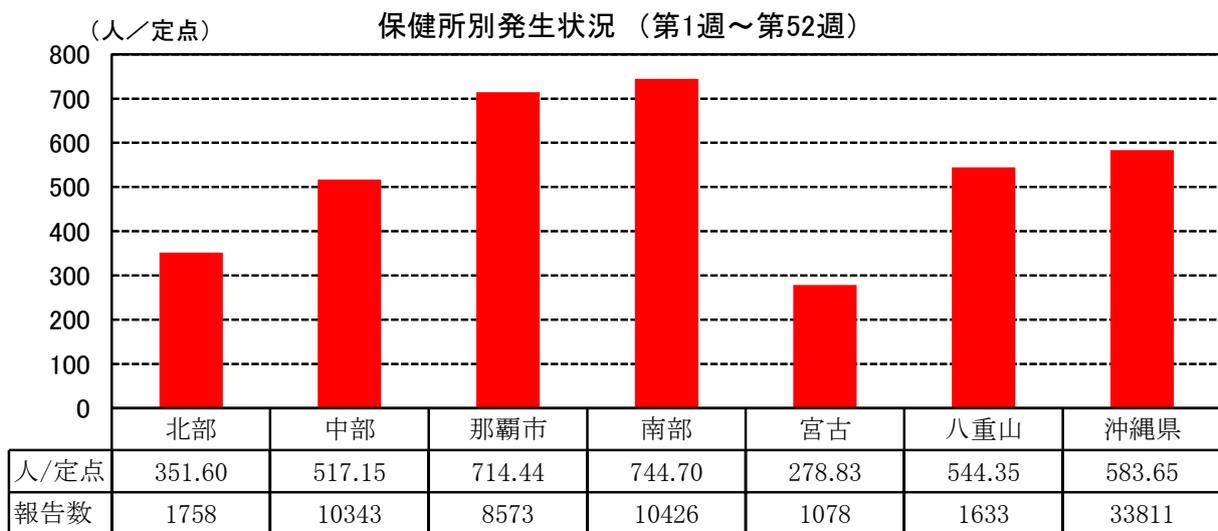
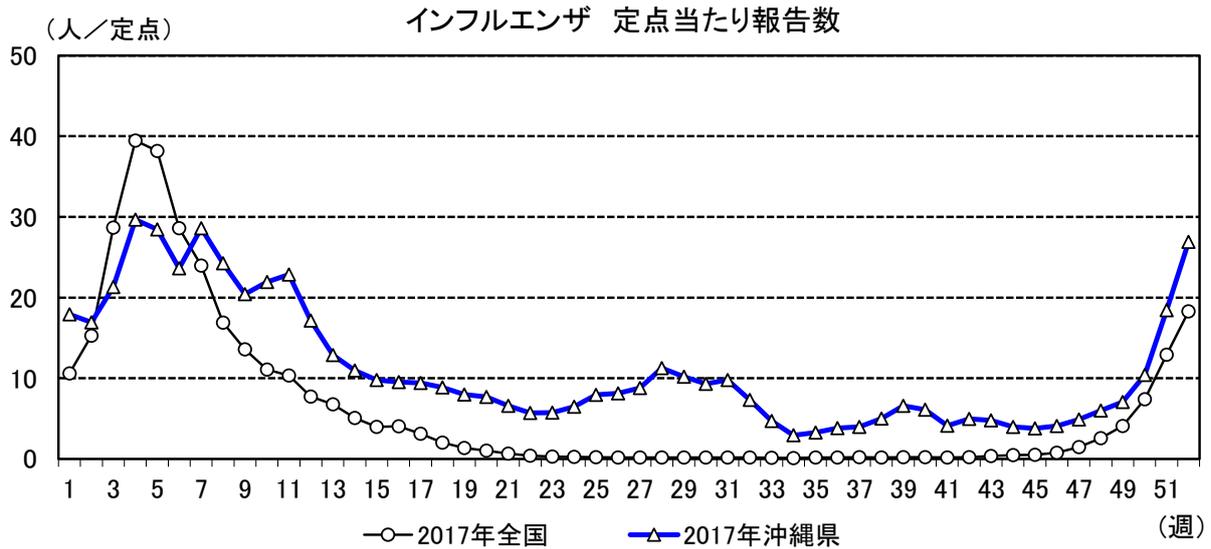


\*AH3とBの重複感染1例あり \*\*2017年第36週～第52週

### シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

平均報告数 (2017/18)を除く	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18*
29,210	21,735	29,570	32,386	27,896	34,462	7,250

\*2017年9月～12月末(第36週～第52週)



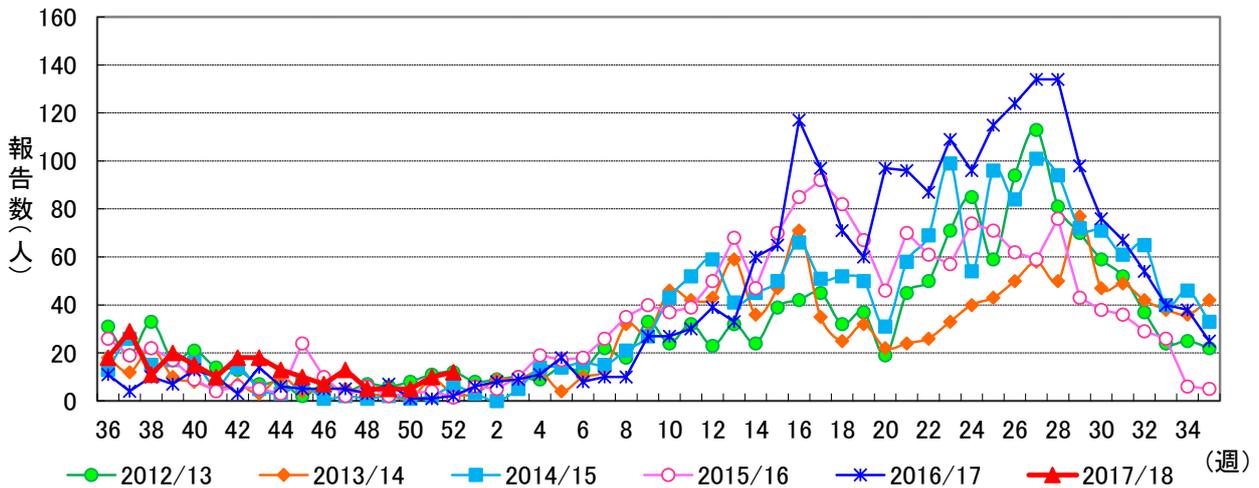
## RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症である。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされている。特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は、重症化しやすいため感染しないよう注意が必要である。

2016/17シーズンの県内患者報告数は2,203人、定点当たり64.79人であった。患者数は年々増加傾向にあり、このシーズン含めた過去5シーズンで最も報告数が多かった。

全国では9月に流行のピークが認められたのに対し、本県では4月と7月に流行が認められた。2017年の年齢階級別では1歳以下で、全体の85.1%を占めていた。

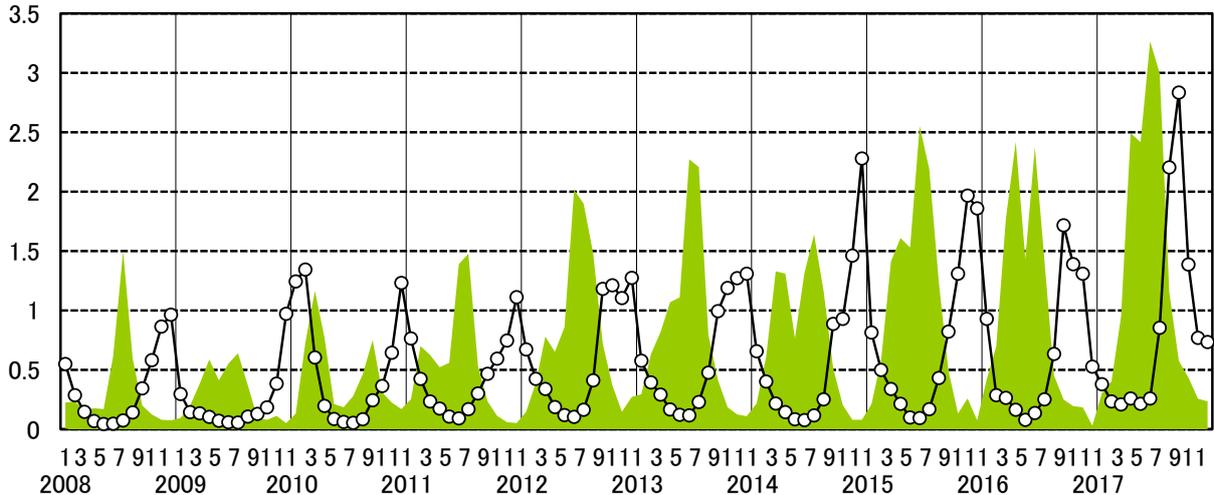
RSウイルス感染症 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

年次別患者発生状況の推移

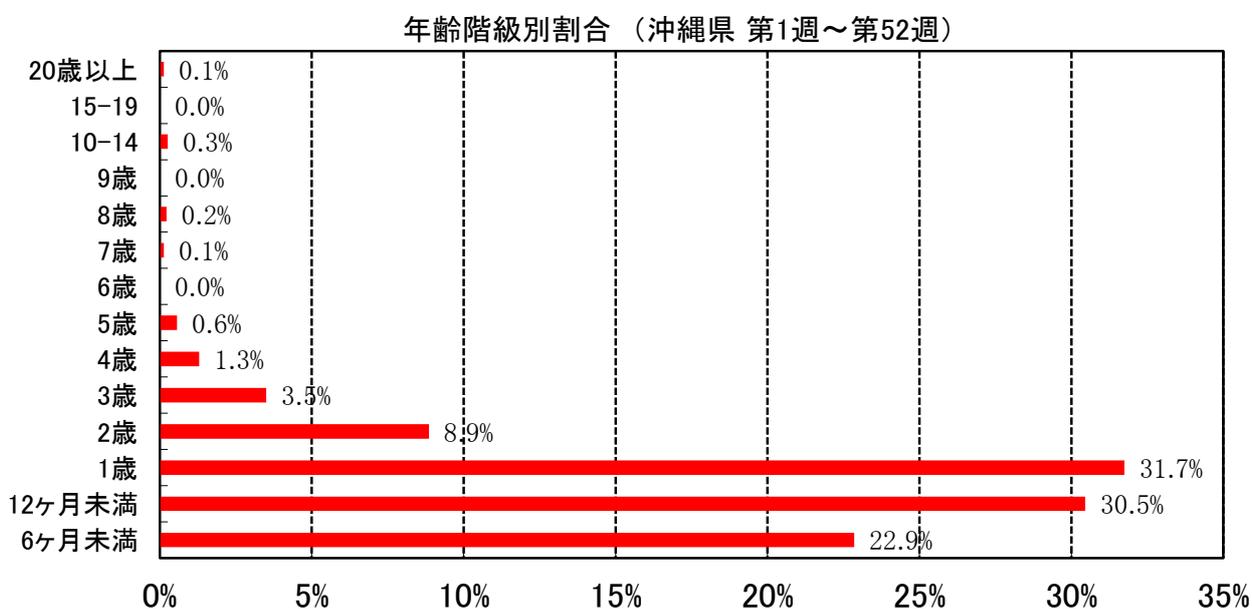
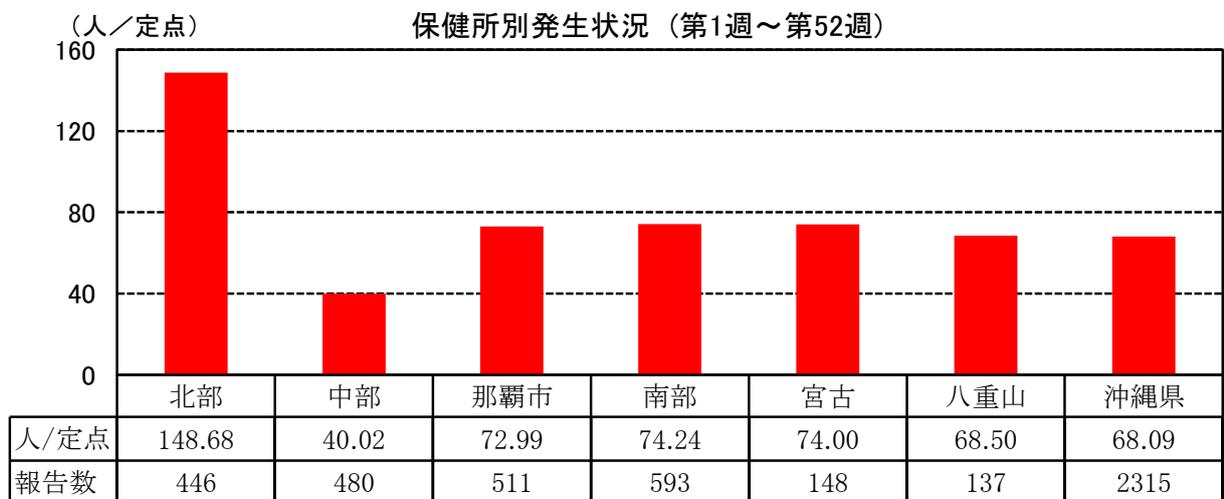
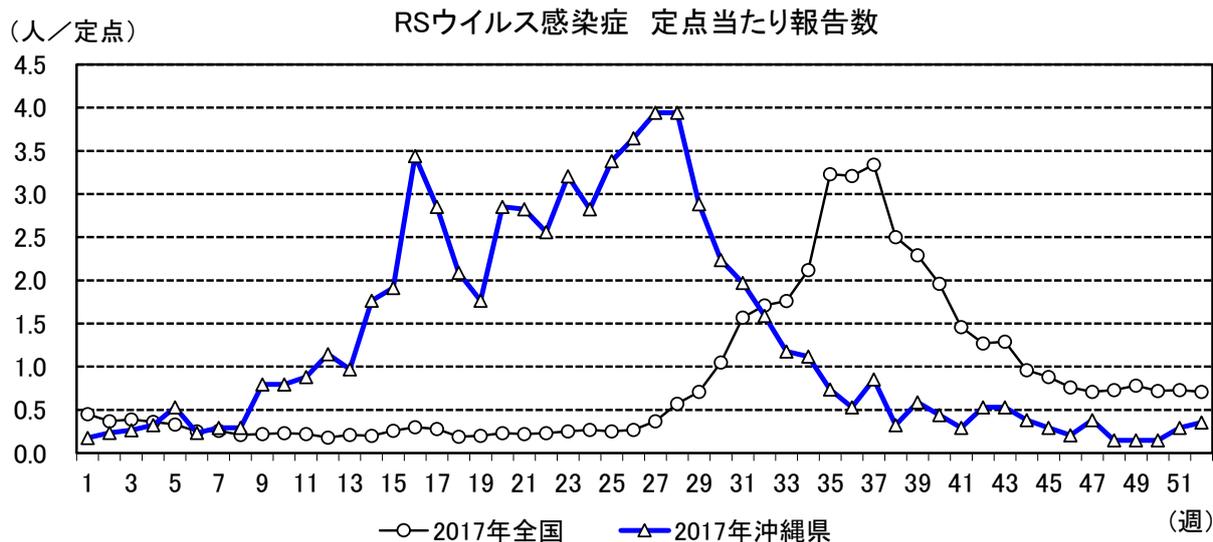
■ 沖縄県    ○ 全国



シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計：RSウイルス感染症

平均報告数 (2017/18)を除く	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18
1,745	1,592	1,360	1,835	1,737	2,203	219

\*2017年9月～12月末(第36週～第52週)

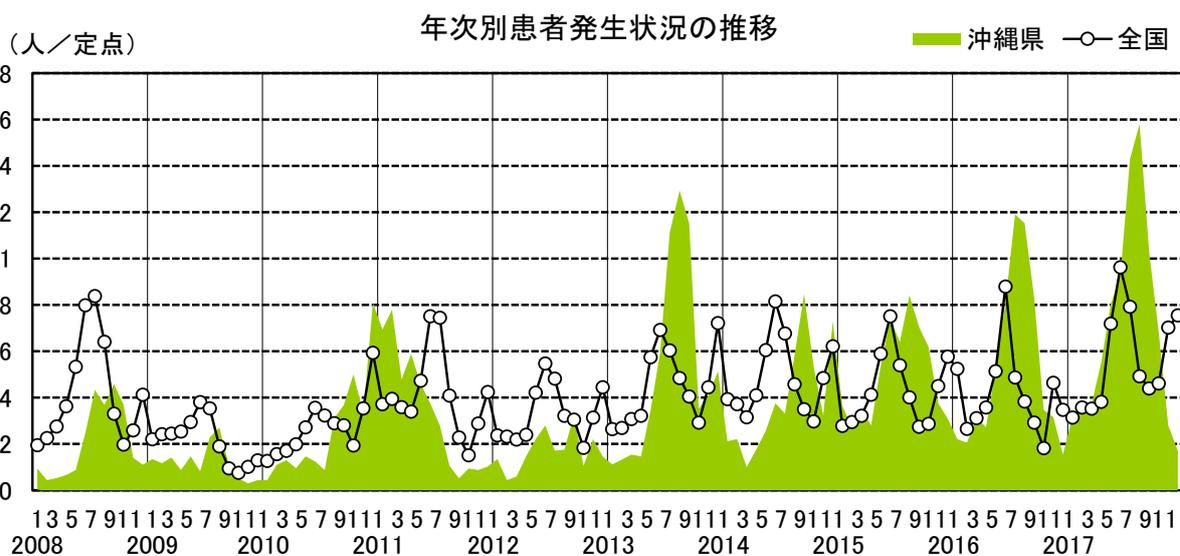
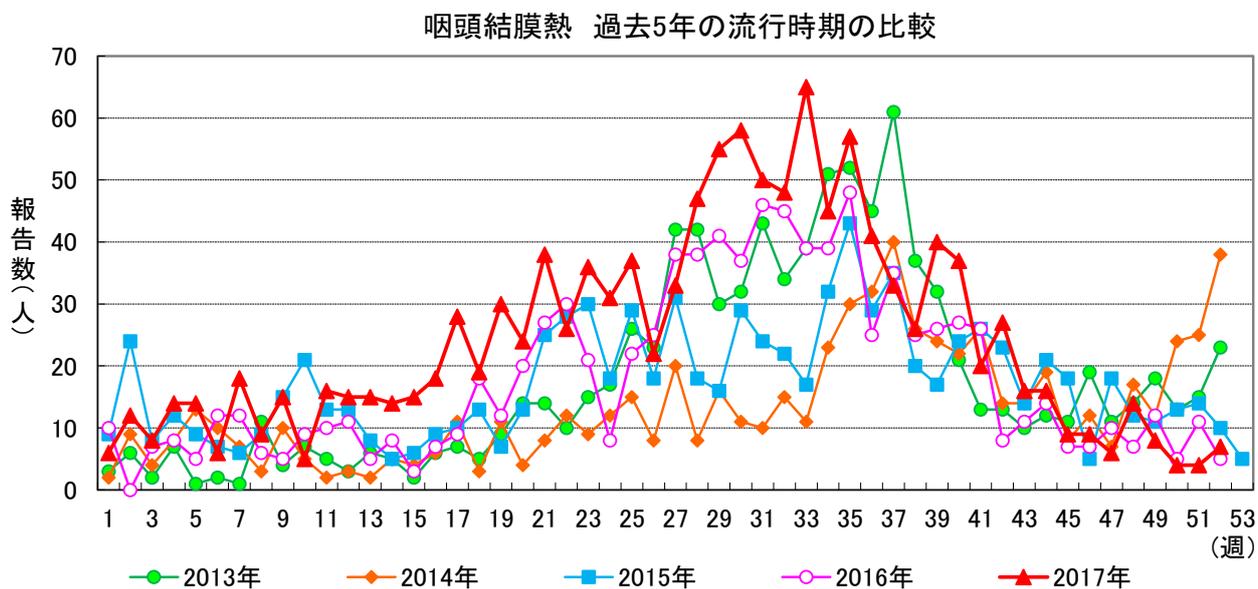


## 咽頭結膜熱（プール熱）

咽頭結膜熱は、アデノウイルスによる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス感染症であり、プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、プール熱とも呼ばれている。

2017年県内の患者報告数は1,266人、定点当たり37.24人であり、2013年以降で最多となった。全国では6月に多いが、本県では7月から8月にかけて多くなった。

保健所別では、北部保健所の患者報告数が87.31人/定点と最も多かった。年齢階級別では、1歳が最も多く全体の35.2%を占めていた。

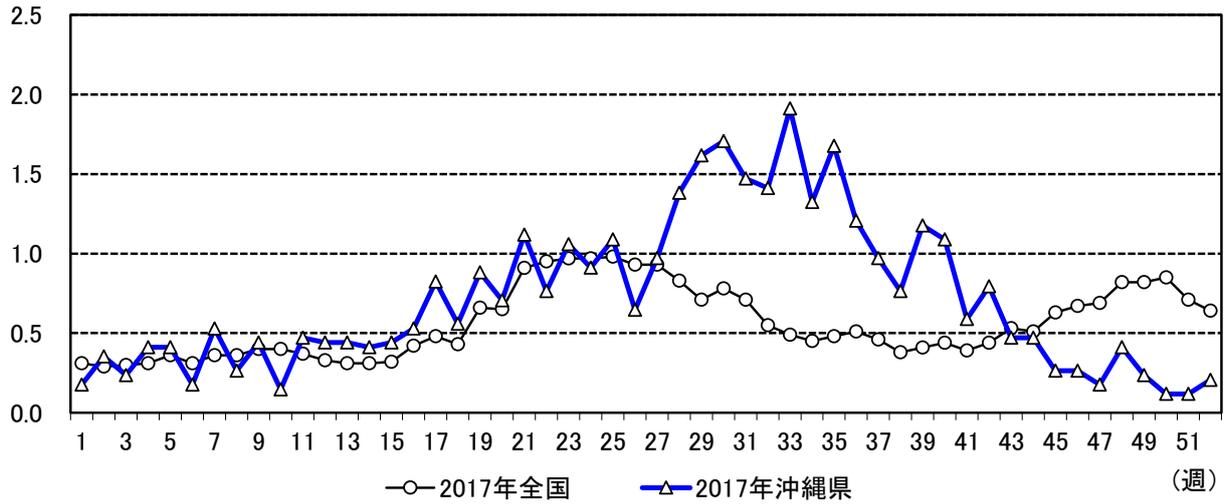


年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
950	944	690	912	938	1266

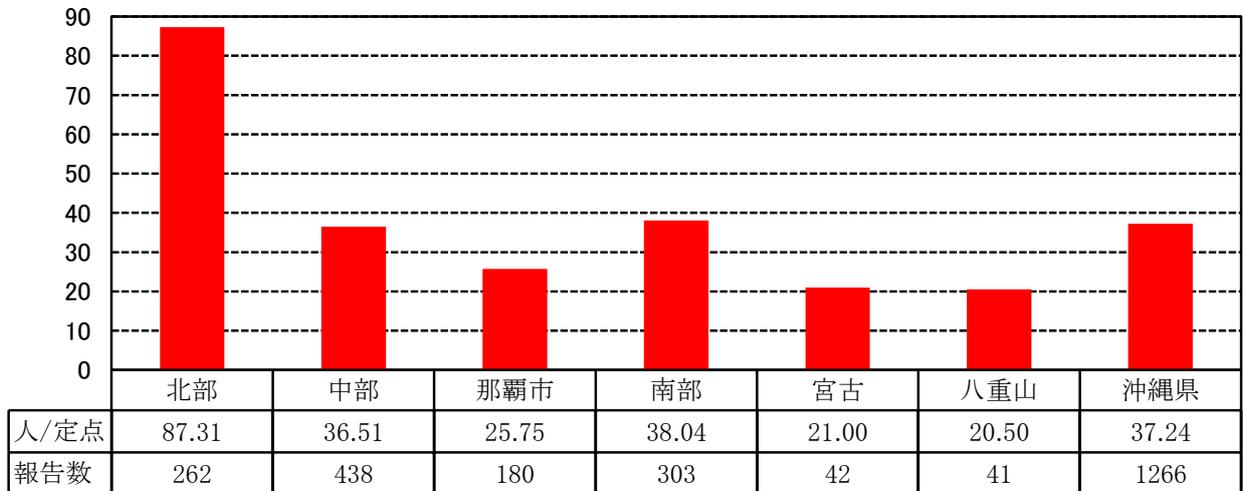
(人/定点)

咽頭結膜熱 定点当たり報告数

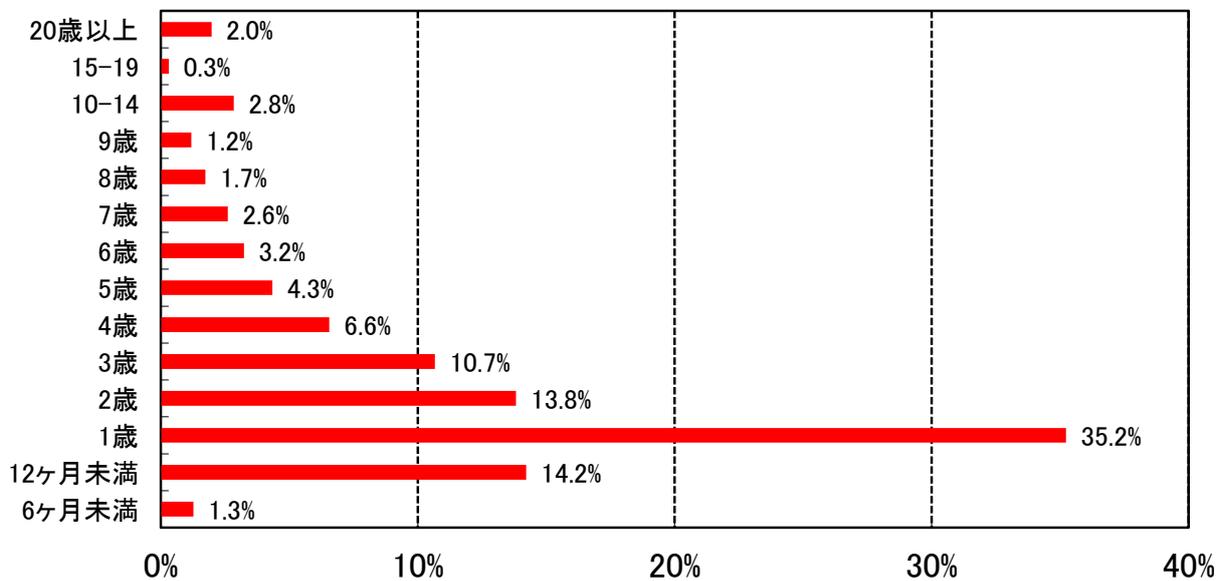


(人/定点)

保健所別発生状況 (報告数及び定点あたり報告数)



年齢階級別割合 (沖縄県)



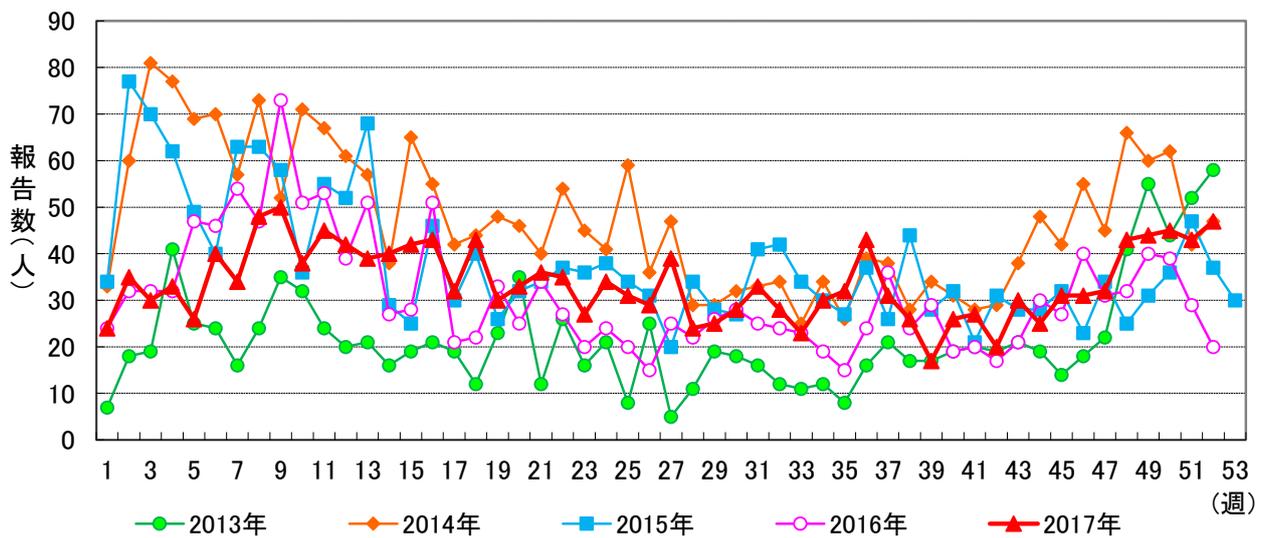
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、いずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く認められる。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱を呈する。発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

2017年県内の患者報告数は1,762人、定点当たり51.82人と前年比1.09とやや増加した。また県内の定点当たりの数値は、年間通して全国値を下回った。

年齢階級別では、20歳以上の報告が、19.8%と最も多くみられた。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 過去5年の流行時期の比較

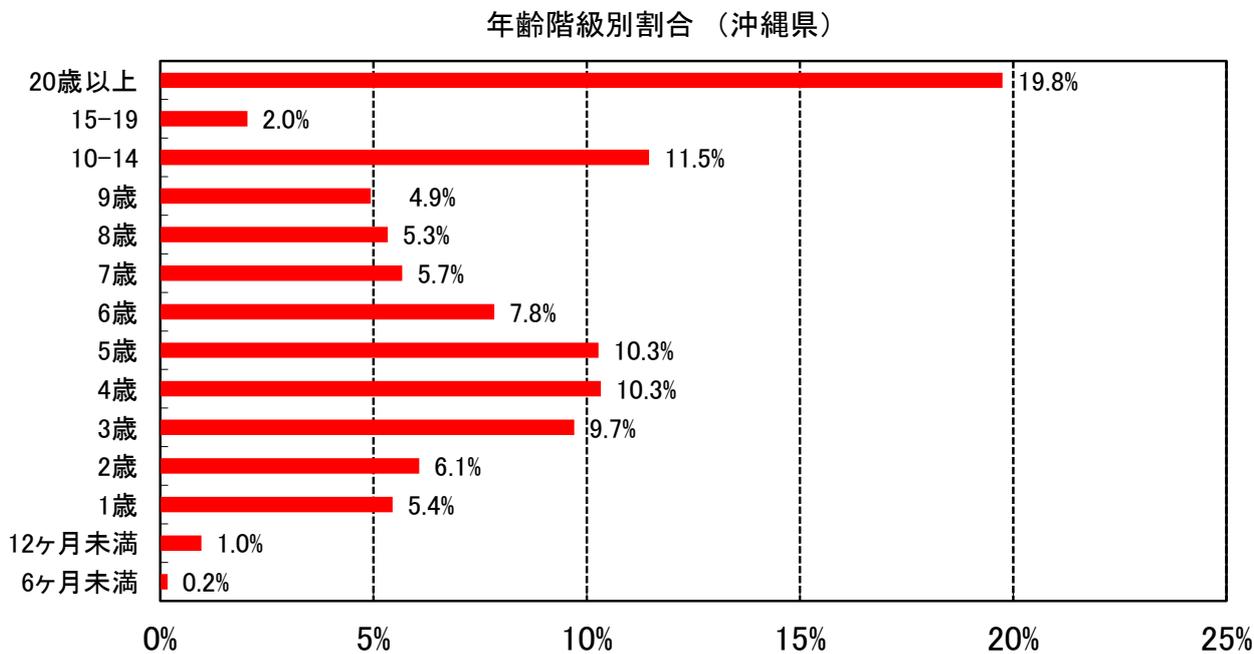
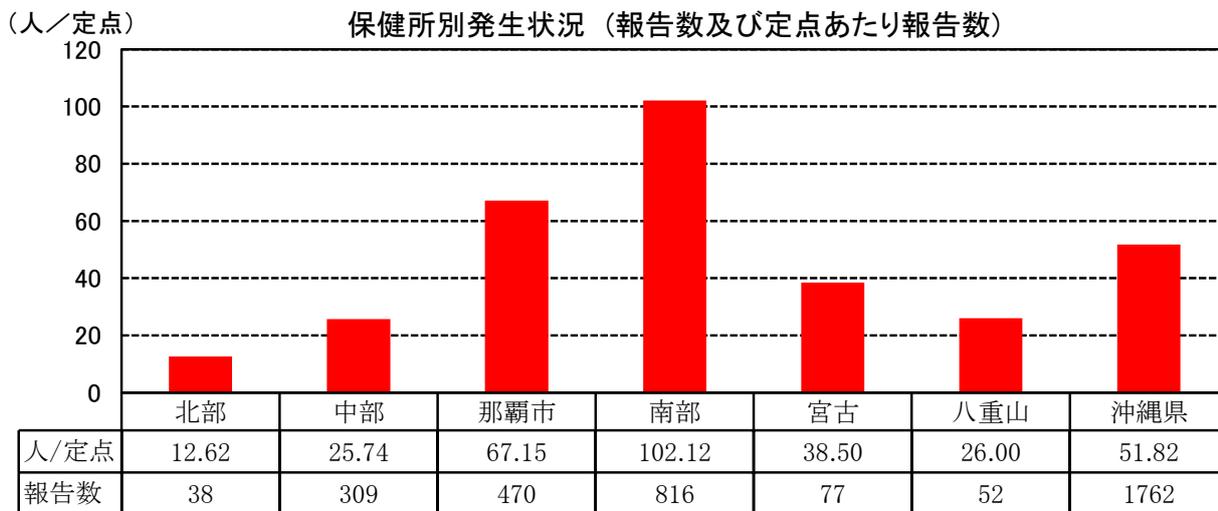
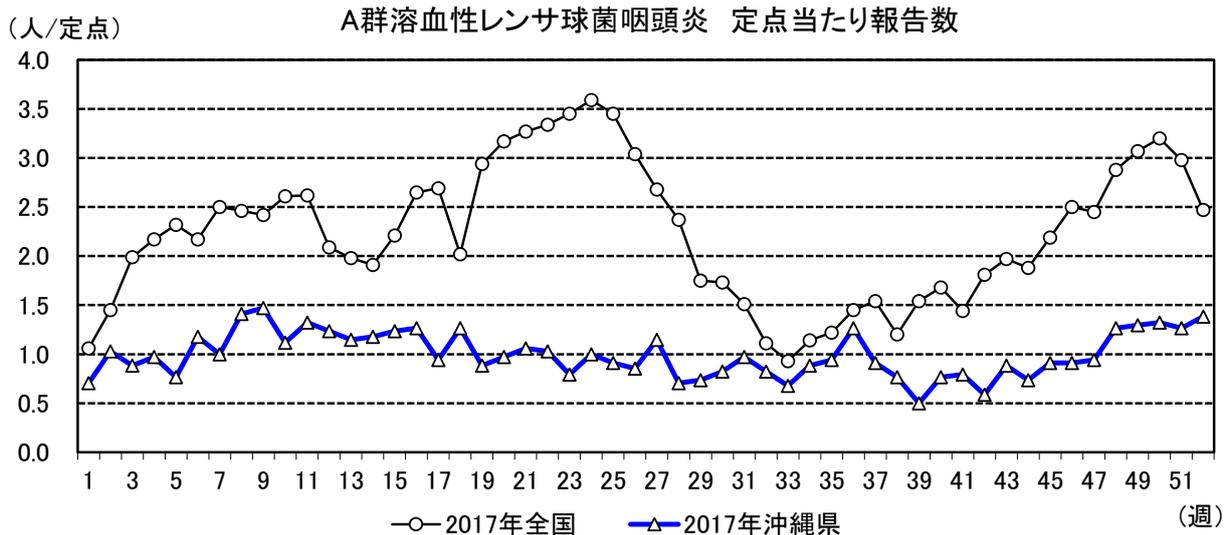


### 年次別患者発生状況の推移



### シーズン別の報告数合計: A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

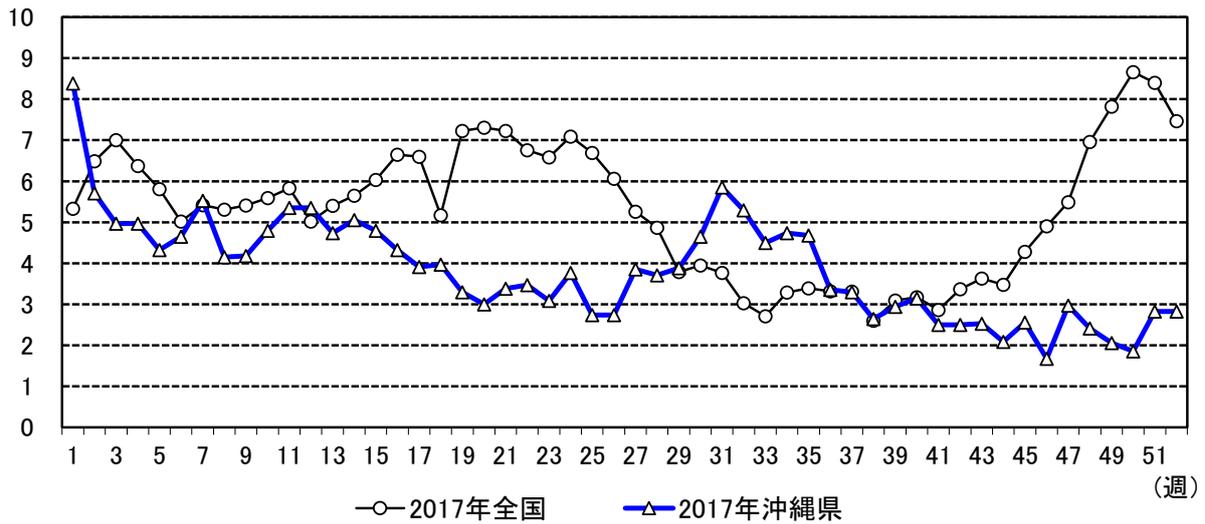
平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,801	1,144	2,462	2,018	1,617	1,762





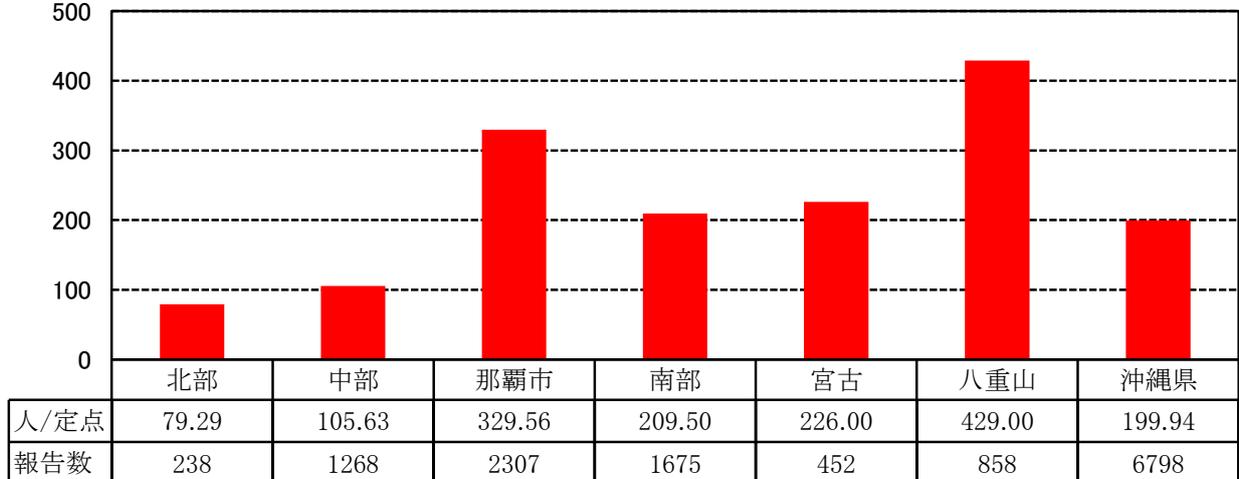
(人/定点)

### 感染性胃腸炎 定点当たり報告数

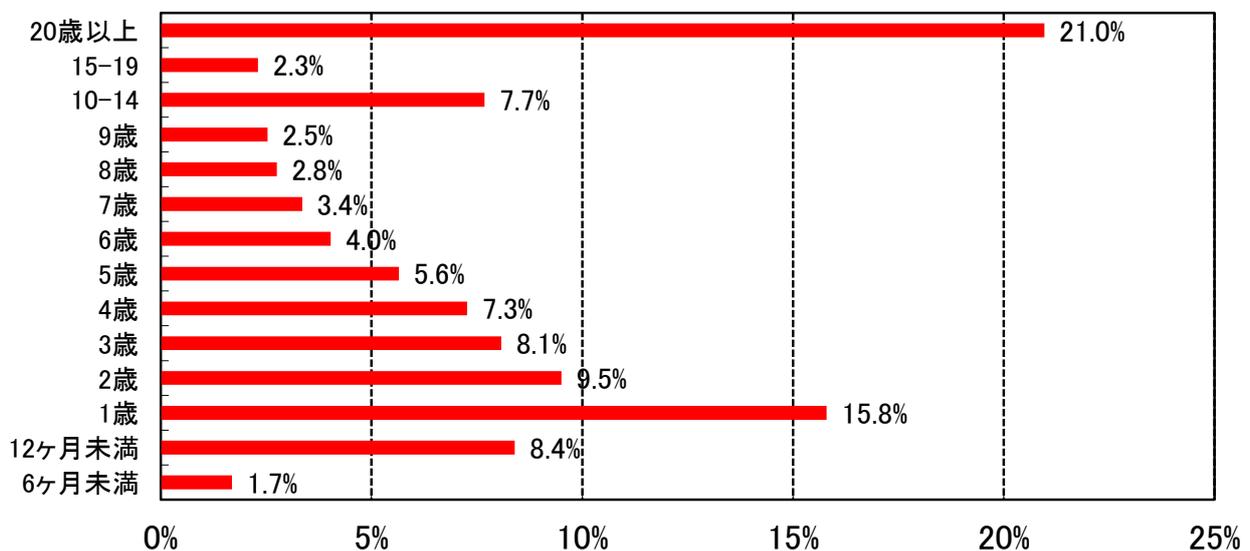


(人/定点)

### 保健所別発生状況 (第1週～第52週)



### 年齢階級別割合 (沖縄県 第1週～第52週)



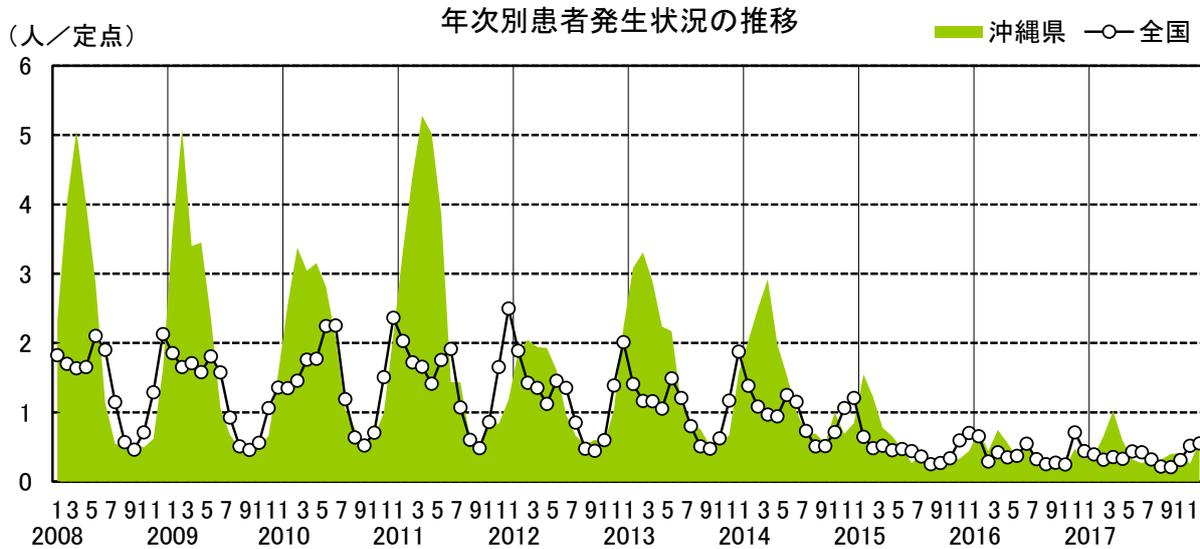
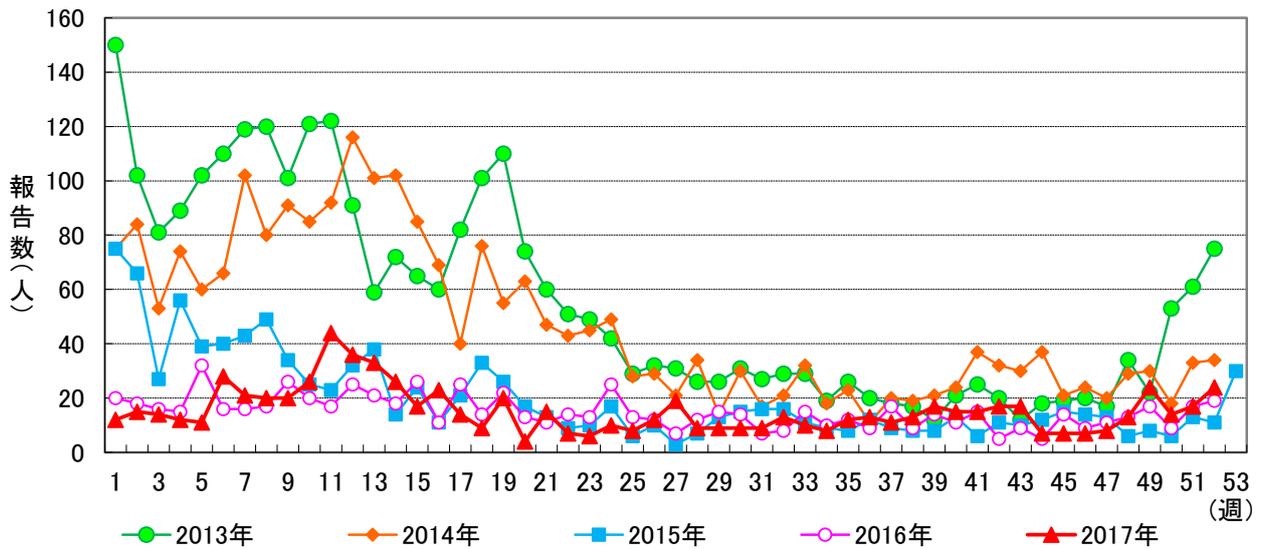
## 水痘

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）によって起こる急性の伝染性疾患である。例年12月～7月に患者発生報告が多く、罹患年齢はほとんどが9歳以下であることが知られている。

2017年県内の患者報告数は800人、定点当たり23.53人であり、前年比1.03とほぼ横ばいとなった。定期予防接種の対象となった2014年10月以降、減少傾向にあり、2017年は保健所単位でも注意報レベルに達することはなかった。

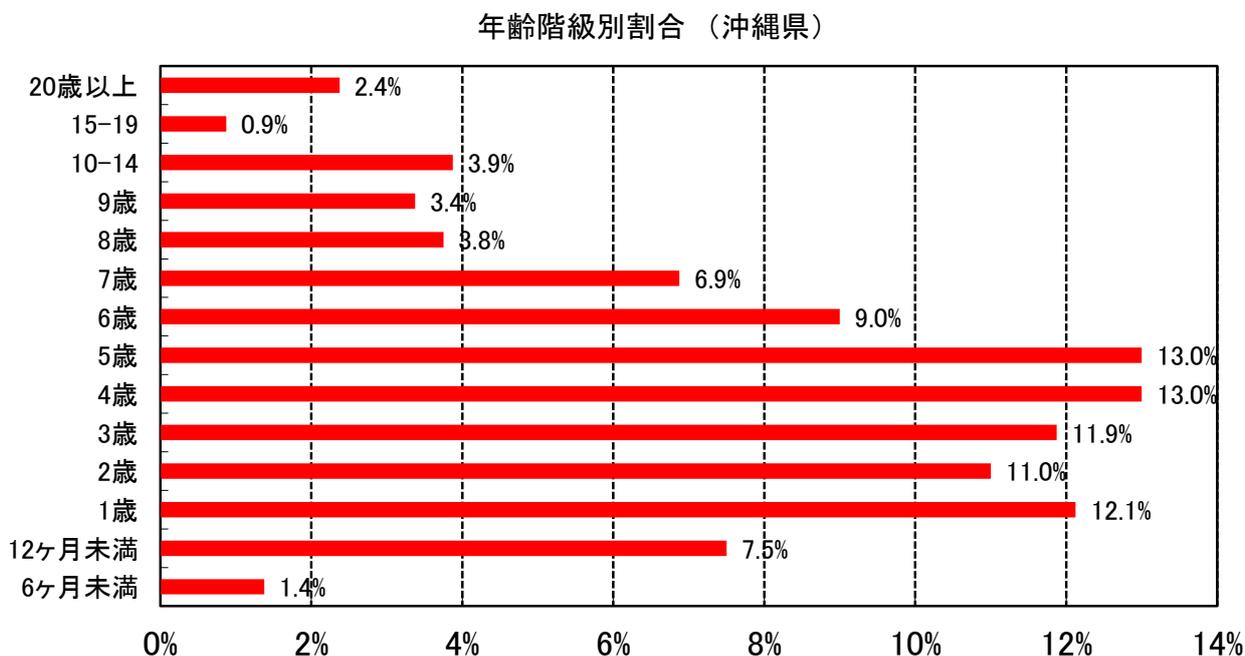
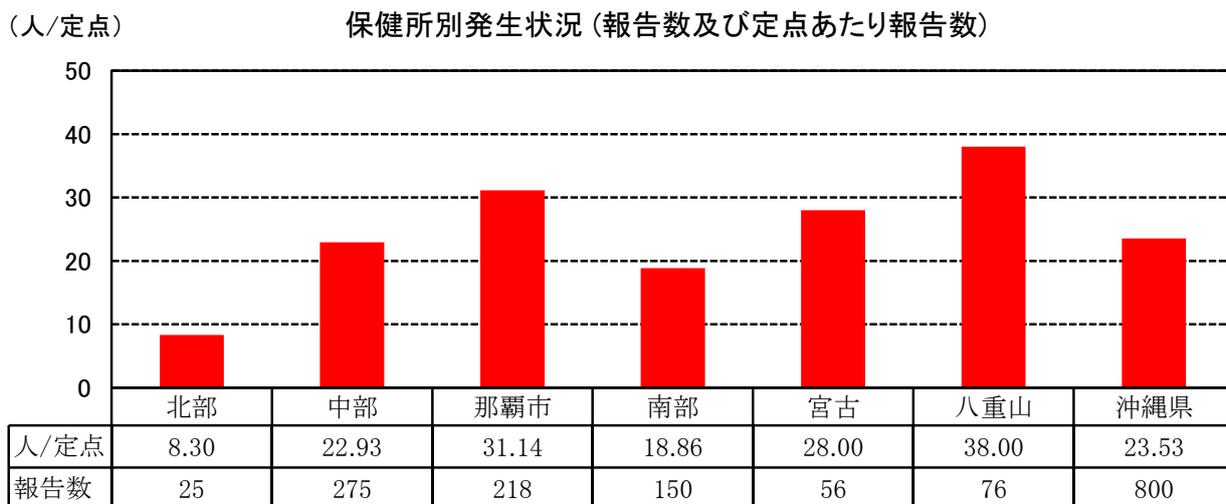
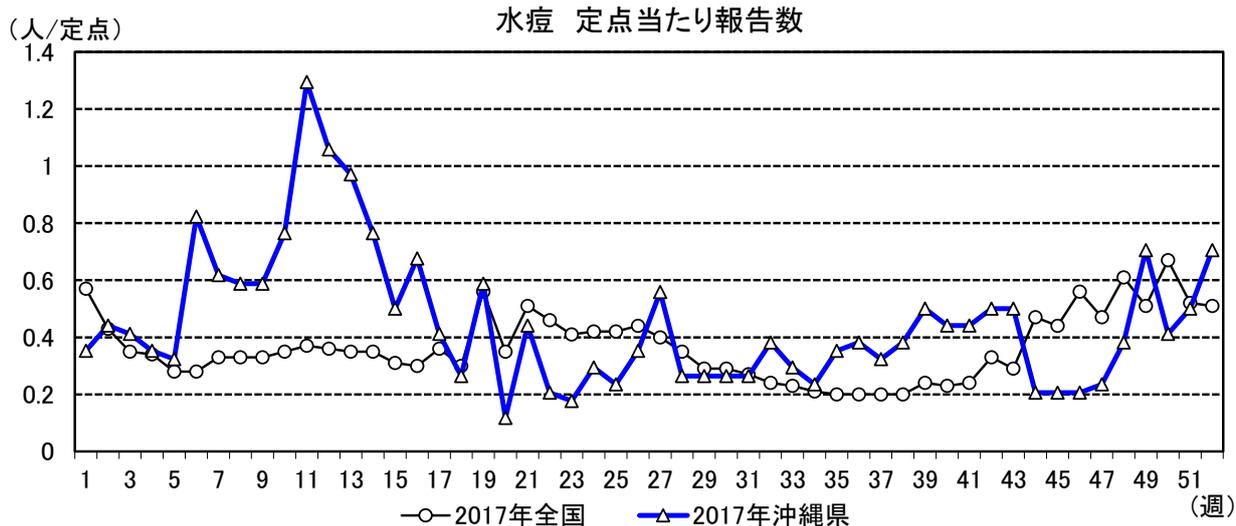
年齢階級別では、4歳と5歳が最も多く全体の13.0%、以下、1歳が12.1%、3歳が11.9%と続いた。

### 水痘 過去5年の流行時期の比較



### シーズン別の報告数合計:水痘

平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,600	2,902	2,460	1,061	779	800

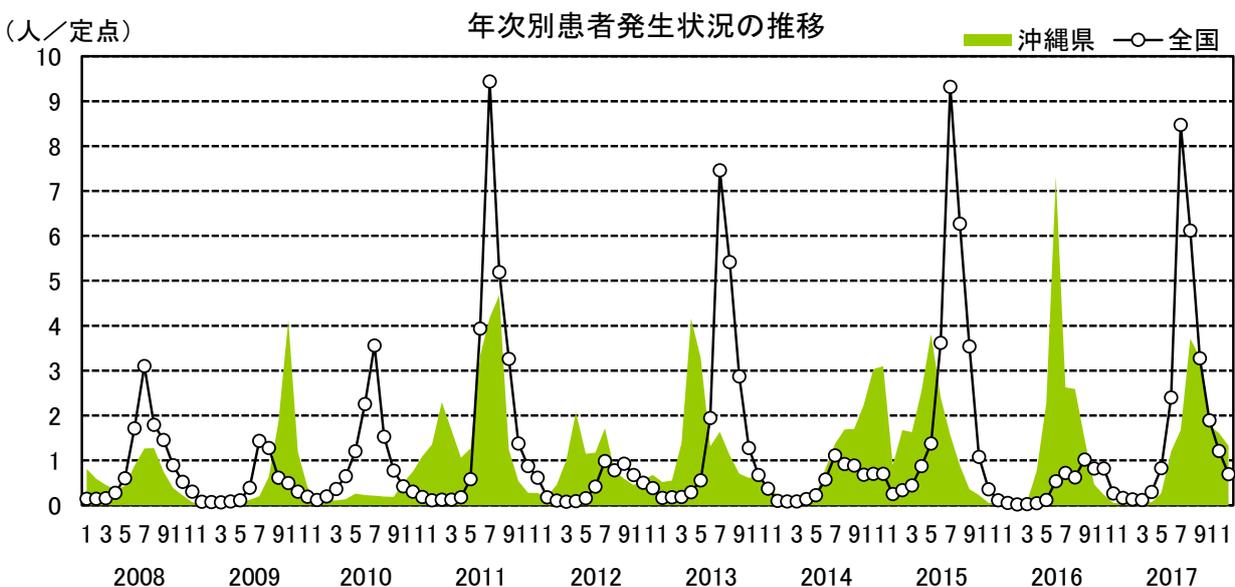
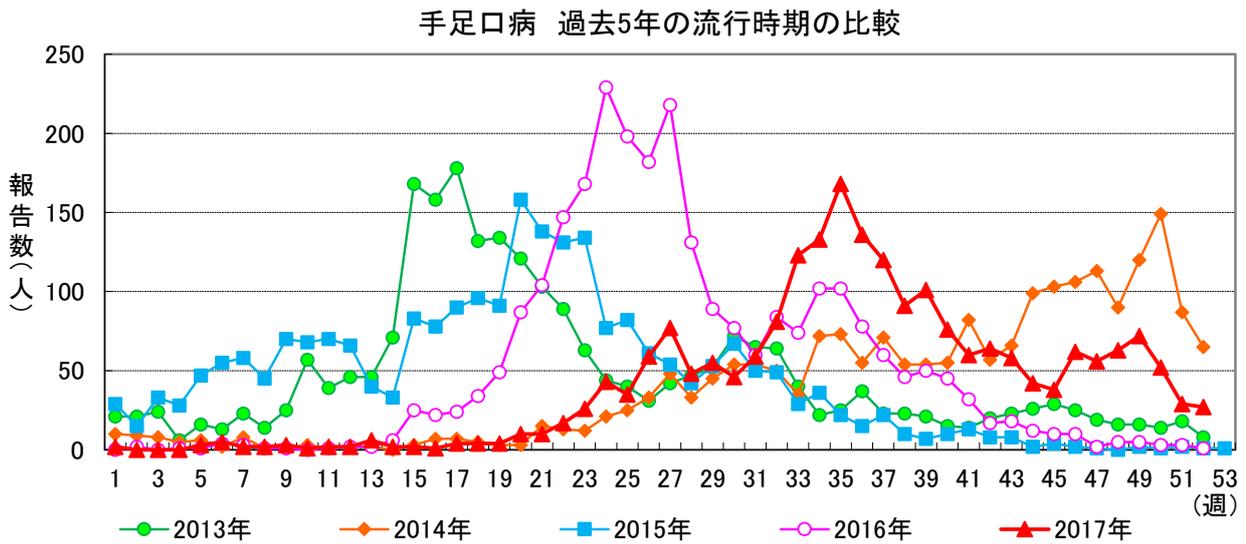


## 手足口病

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られる。コクサッキーA16（CA16）、CA10、CA6、エンテロウイルス71（EV71）などが起因ウイルスである。EV71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られている。

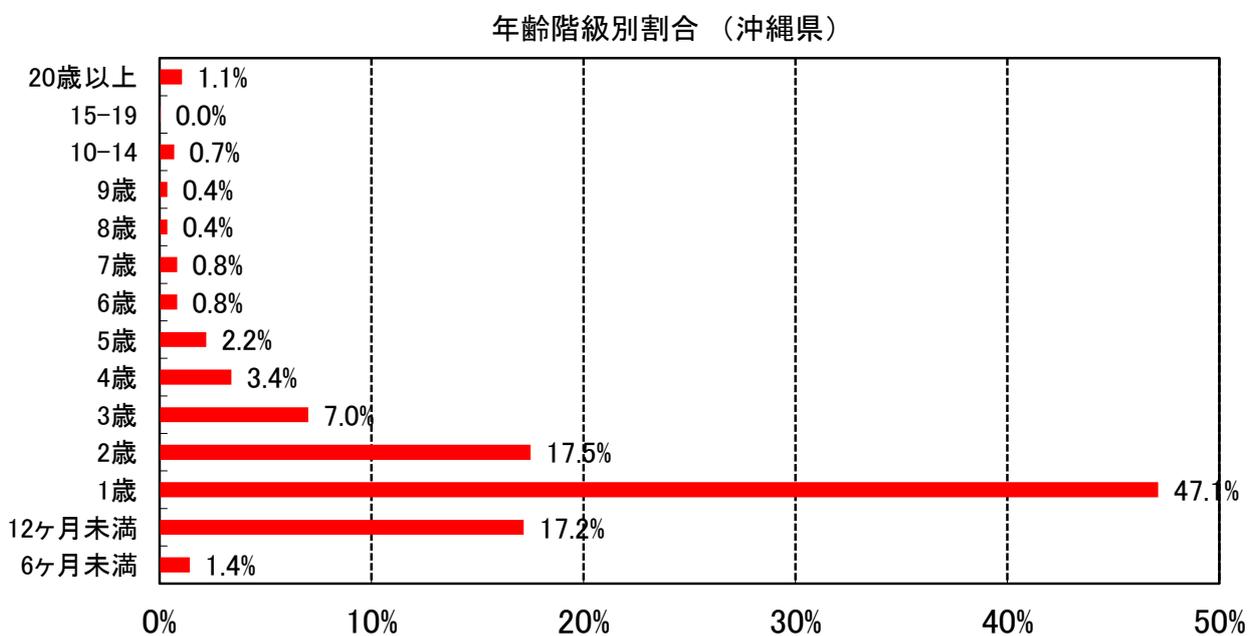
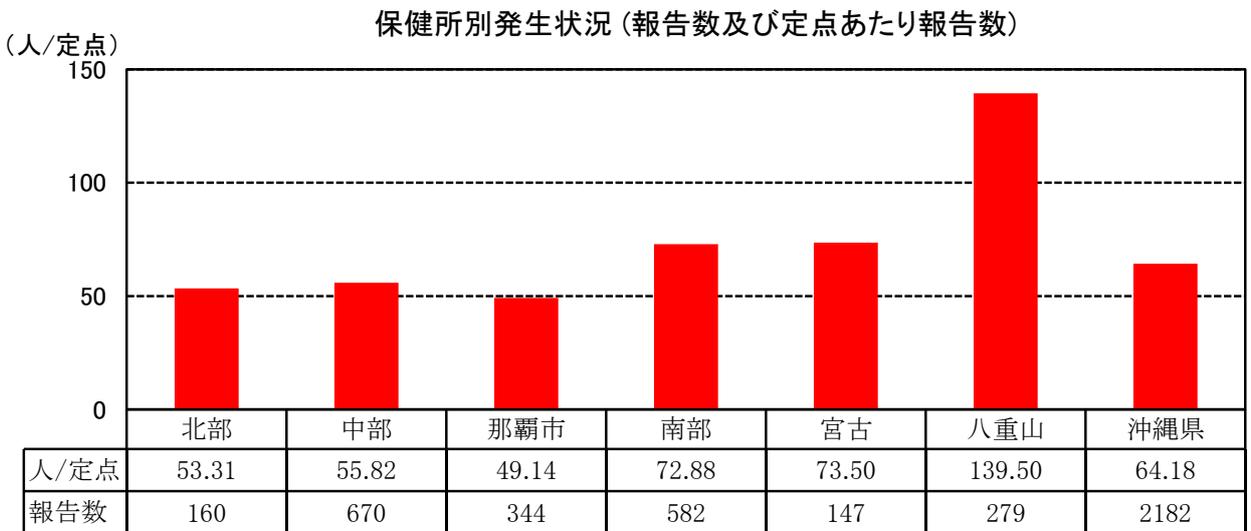
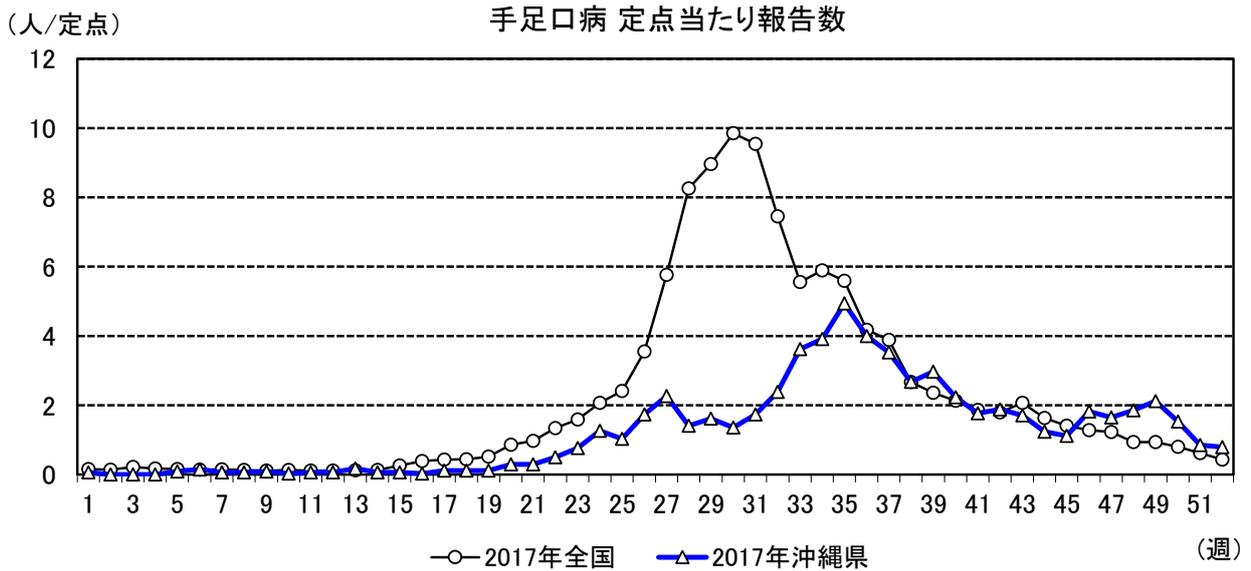
2017年県内の患者報告数は2,182人、定点当たり64.18人であり、前年比0.83と減少した。8月（第34週）に北部、南部、宮古、八重山保健所管内にて警報基準値に達するも、年間通して県全域で警報レベルに至ることはなかった。

年齢階級別では、1歳が最も多く、全体の47.1%を占めていた。



### シーズン別の報告数合計：手足口病

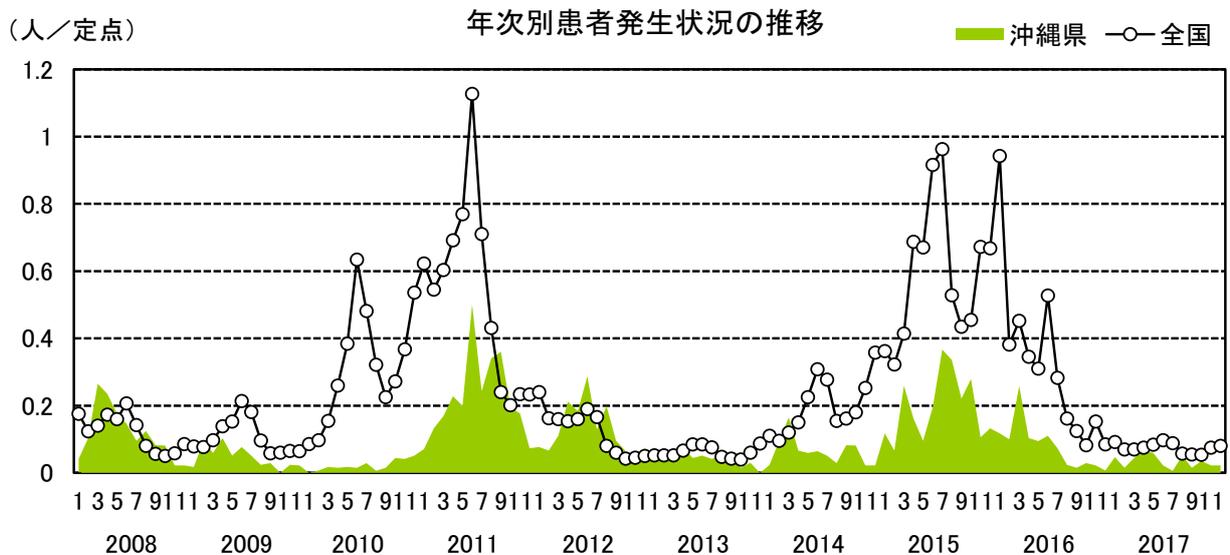
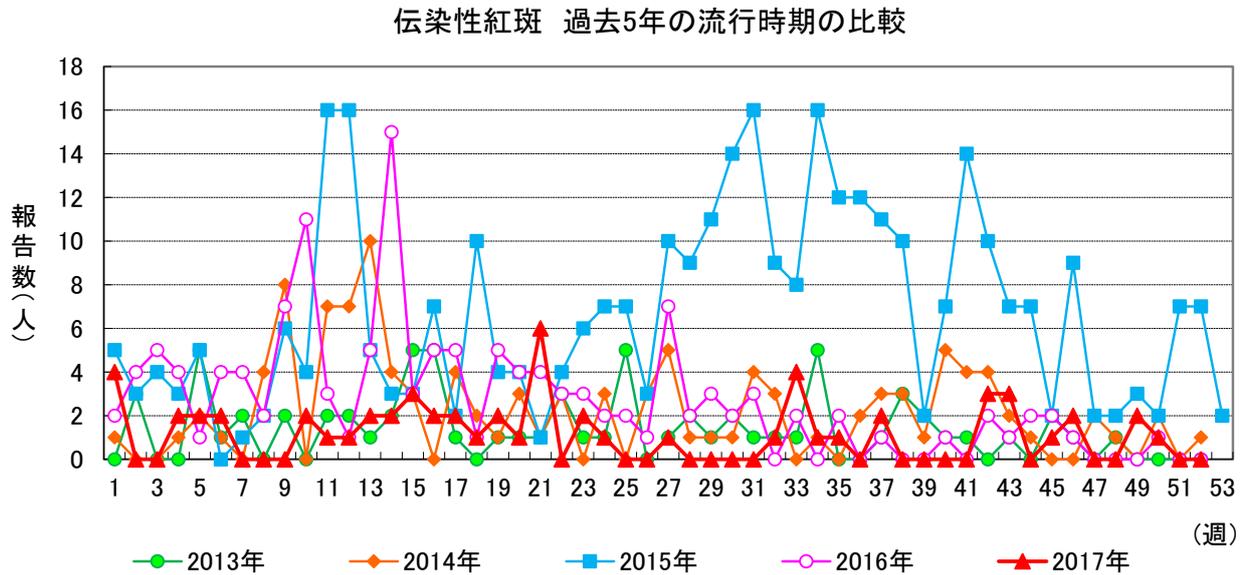
平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
2,350	2,459	2,095	2,387	2,627	2,182



## 伝染性紅斑

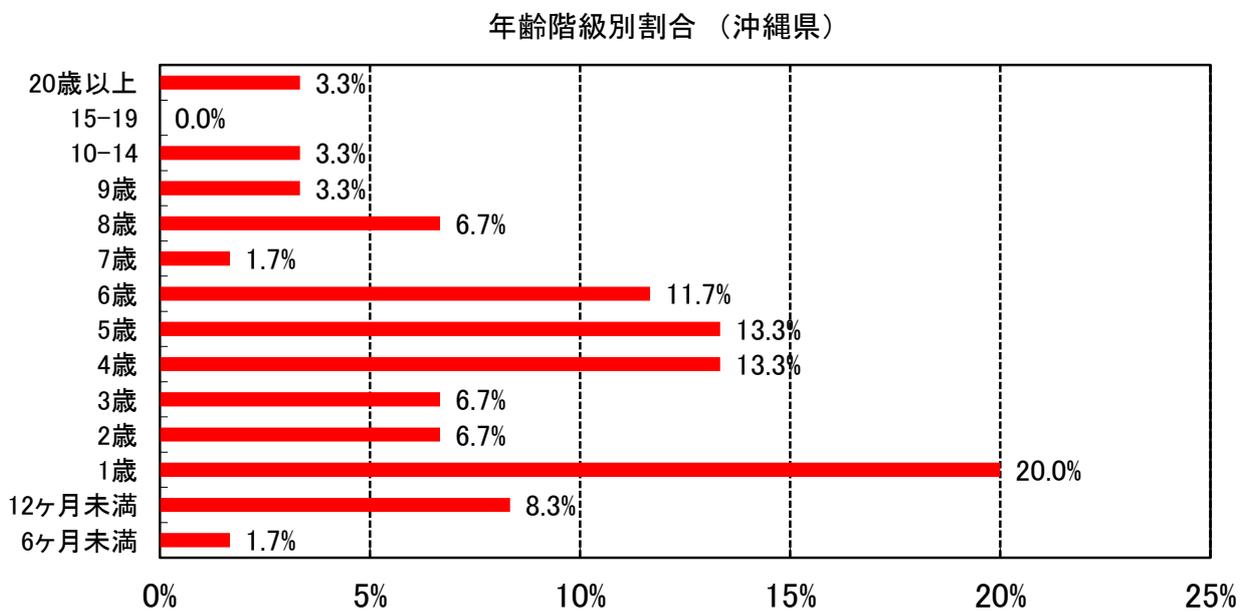
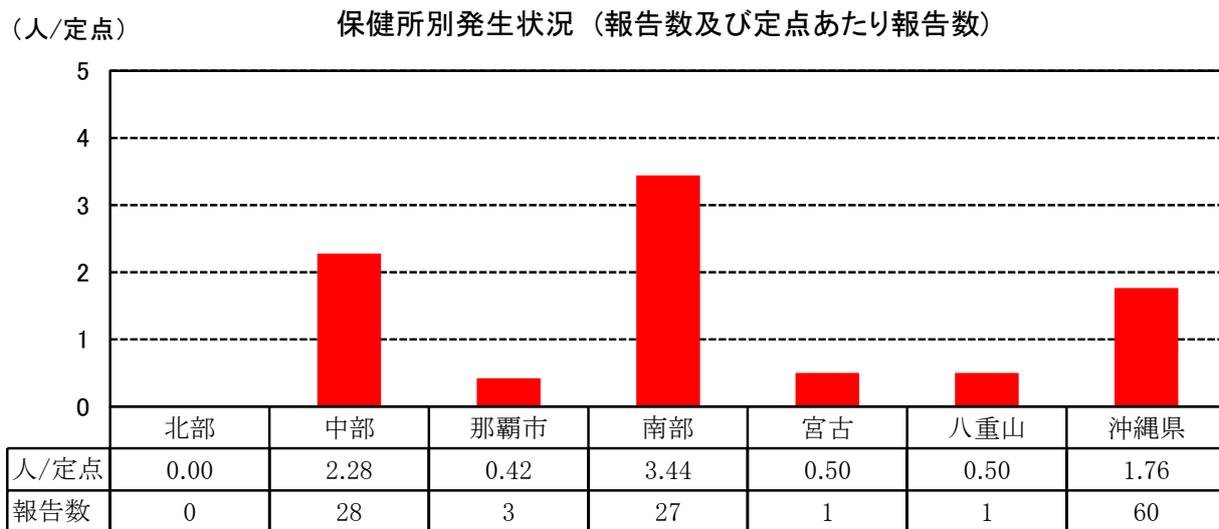
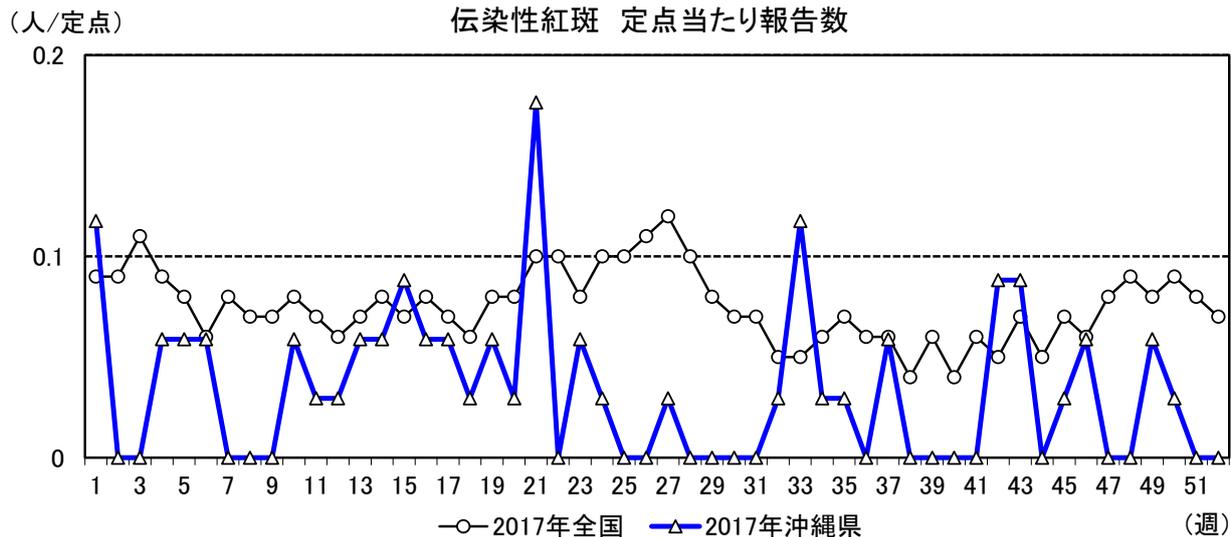
伝染性紅斑は、頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児を中心としてみられる流行性発疹性疾患である。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもある。1月から7月にかけて報告数が増加し、9月頃最も少なくなるという流行パターンを呈する。

2017年県内の患者報告数は60人、定点当たり1.76人であり、前年比0.43と大幅に減少し、2011年以降で最小となった。年齢階級別では、6ヶ月未満から成人まで幅広く分布していた。



シーズン別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
147	71	115	352	138	60

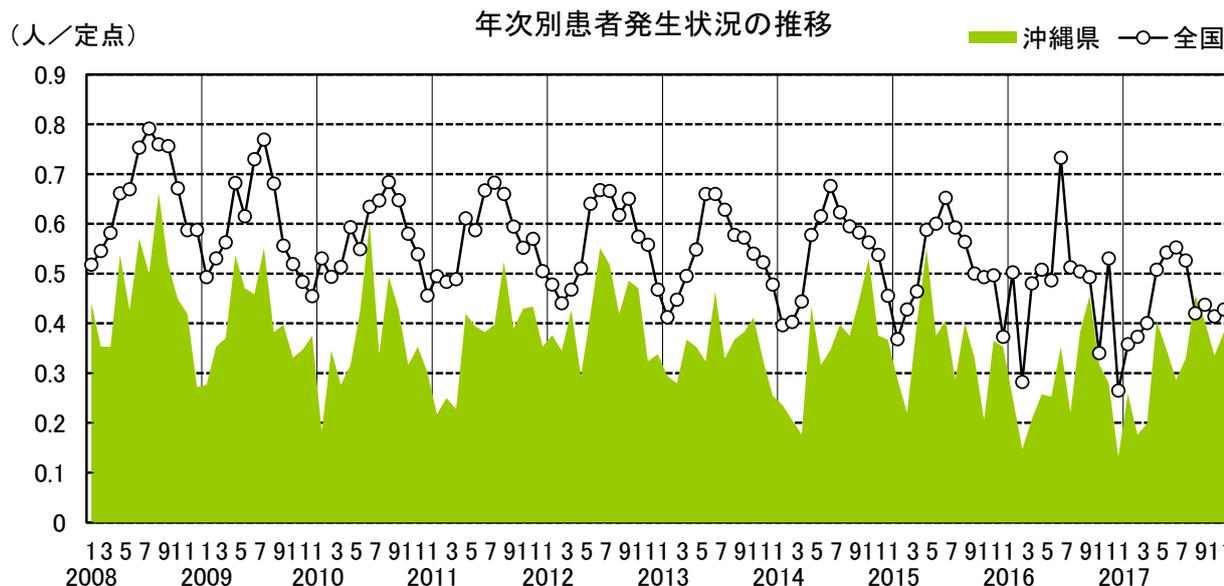
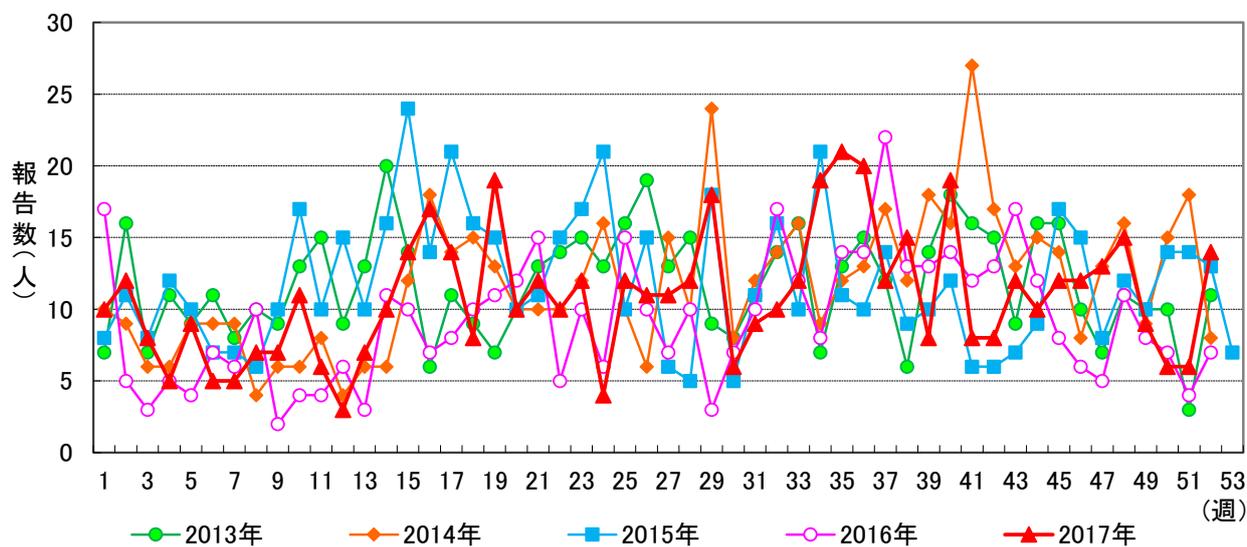


## 突発性発疹

突発性発疹は、乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好である。原因ウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6あるいは7であることが多い。

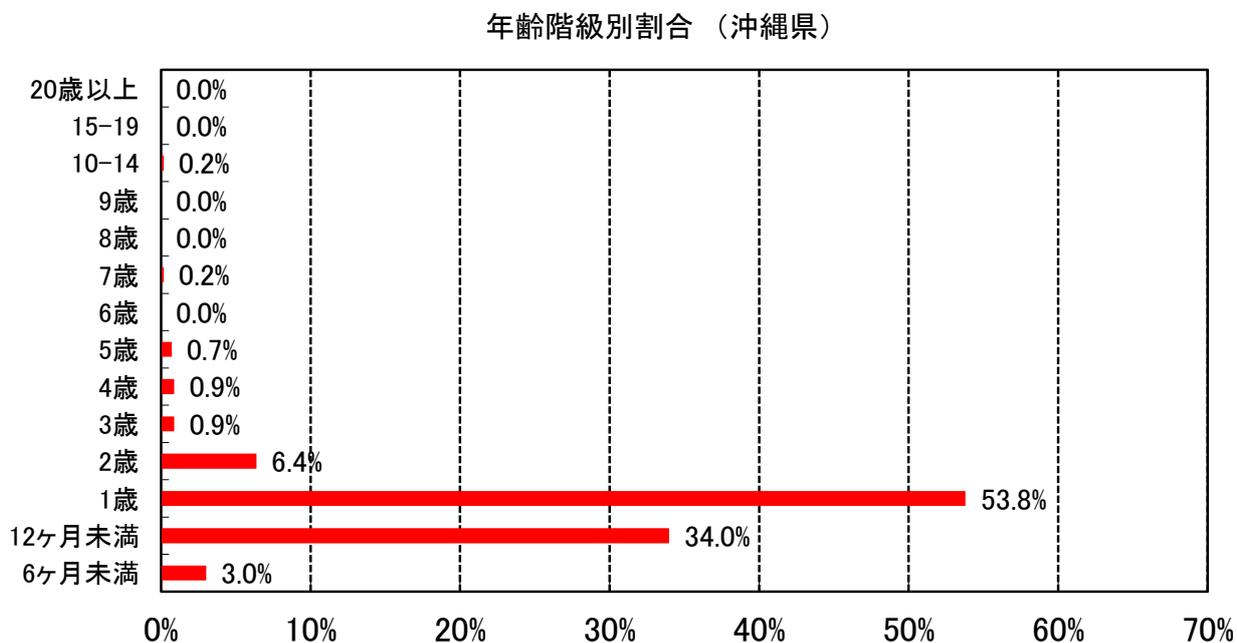
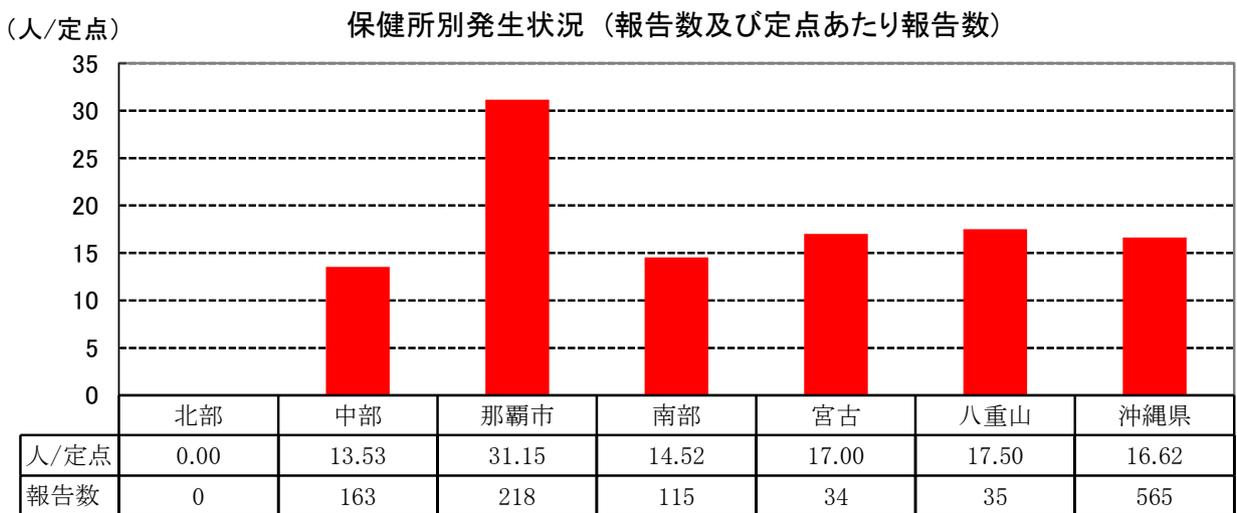
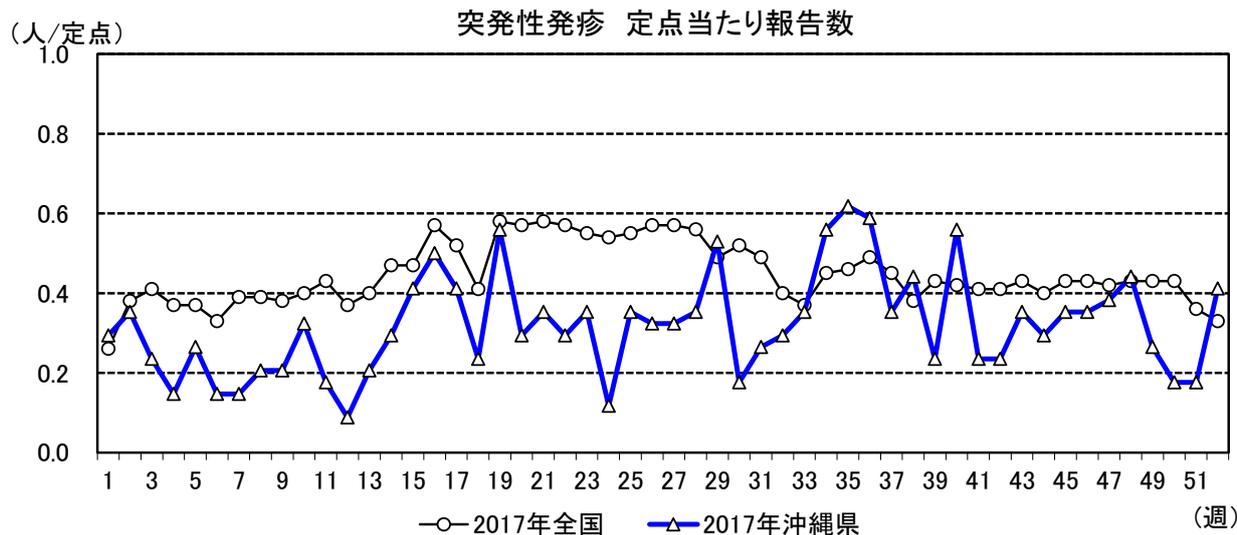
2017年県内の患者報告数は565人、定点当たり16.62人であり、前年比1.18と増加した。年齢階級別の患者報告数は、1歳が53.8%を占めた。

### 突発性発疹 過去5年の流行時期の比較



### シーズン別の報告数合計：突発性発疹

平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
580	610	613	632	480	565



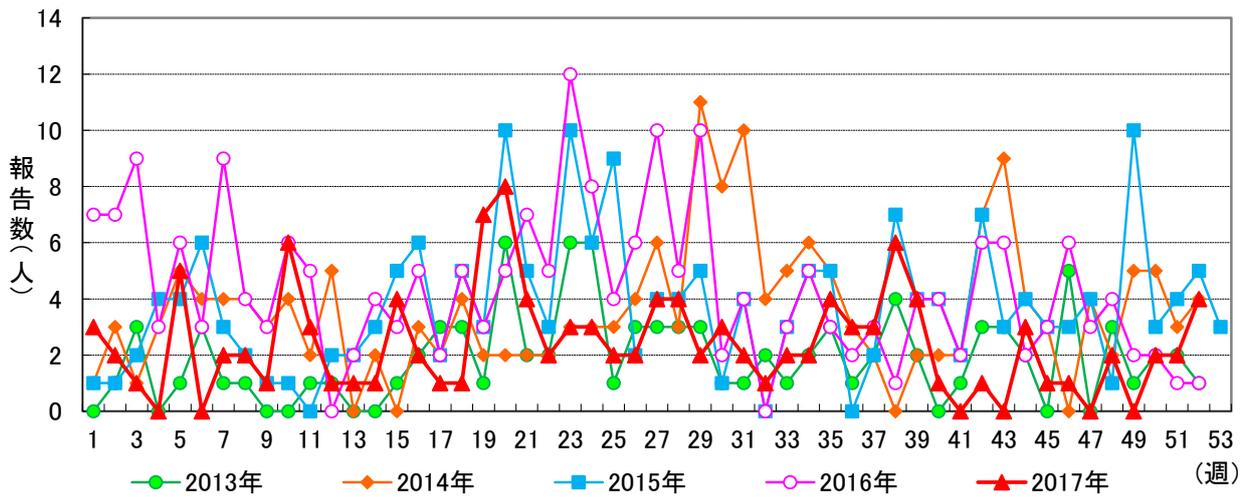
## 百日咳

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症である。母親からの免疫（経胎盤移行抗体）が期待できないため、乳児期早期から罹患し、1歳以下の乳児、ことに生後6カ月以下では死に至る危険性も高い。百日せきワクチンによる免疫効果は5～10年程度であるため、ワクチン既接種の成人も感染する。成人が感染した場合、症状が軽いため本人が気づかないうちに乳幼児への感染源となることがあり、注意が必要である。

2017年県内での患者報告数は124人、定点当たり3.65人であった。ほぼ年間を通して、定点あたりの報告数が全国より多いが、県単位及び保健所管内単位で警報レベルに達することはなかった。

年齢階級別では、20歳以上が全国では22.6%に対して、県内では54.8%と、やや年齢構成が異なる。

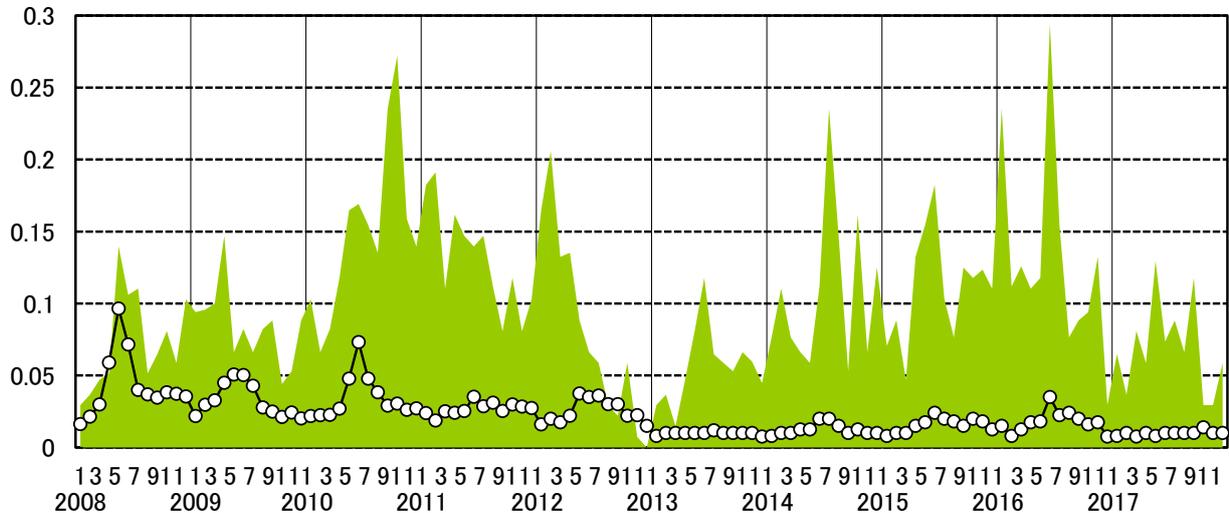
百日咳 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

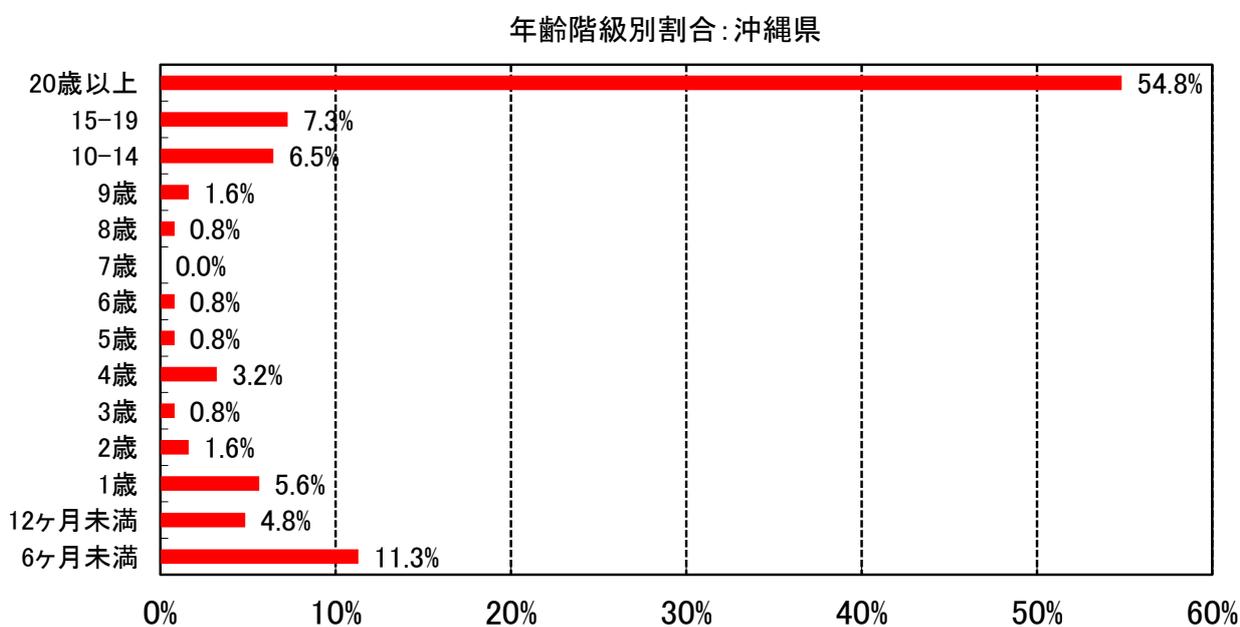
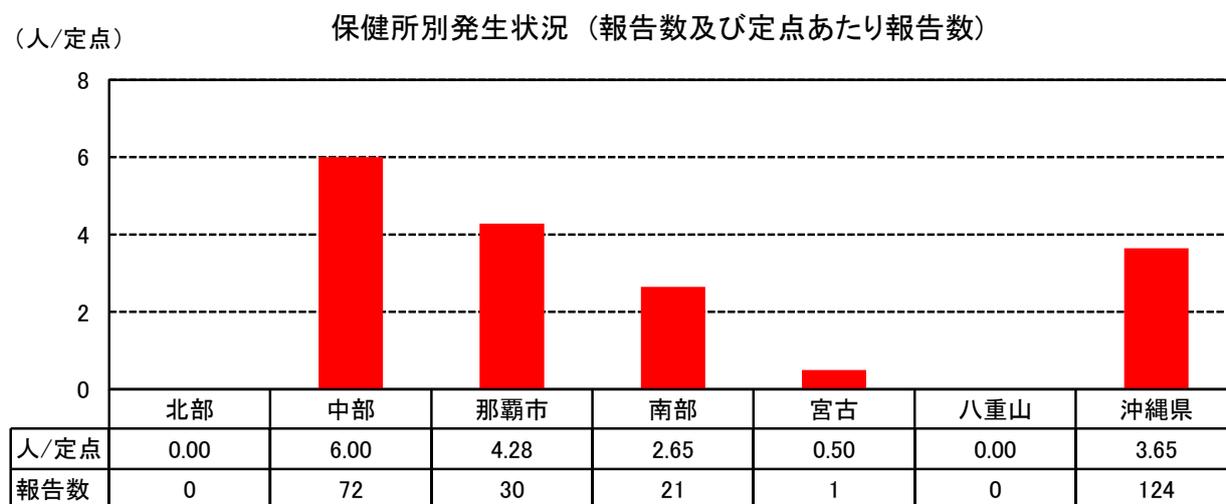
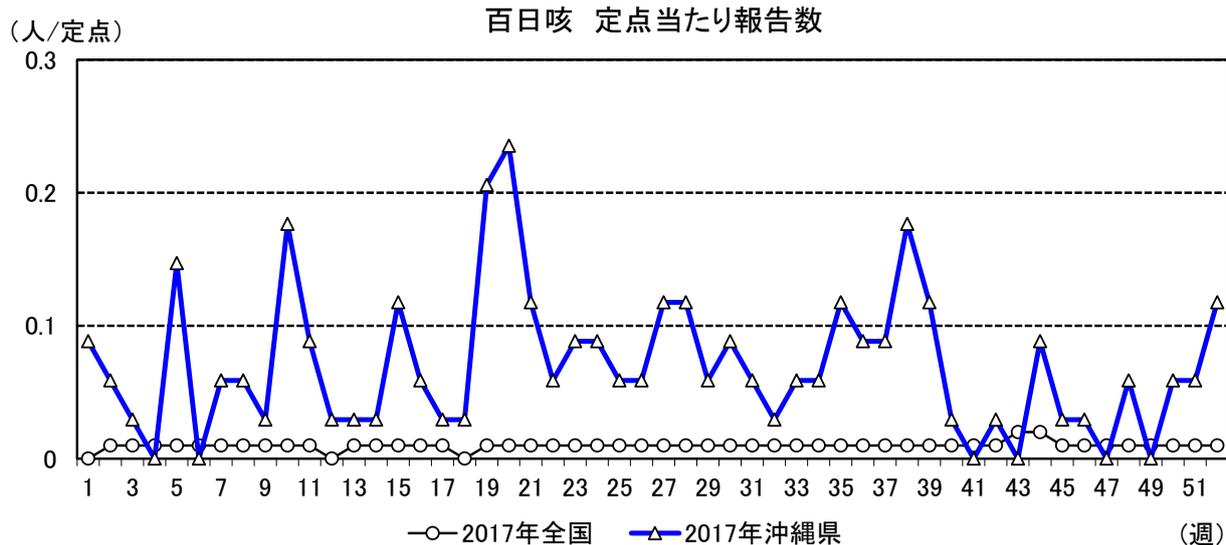
年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国



シーズン別の報告数合計：百日咳

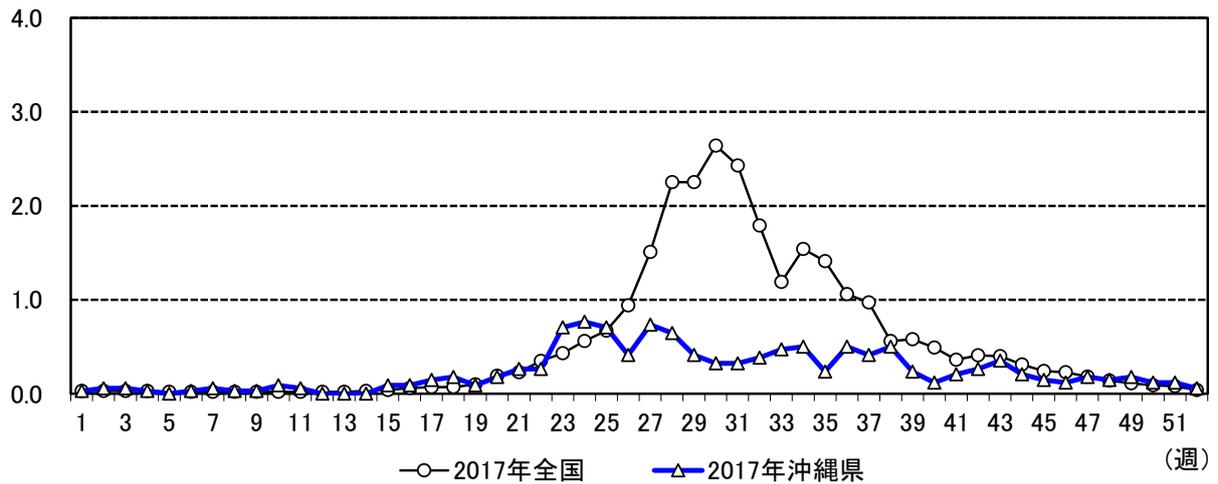
平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
167	99	186	198	227	124





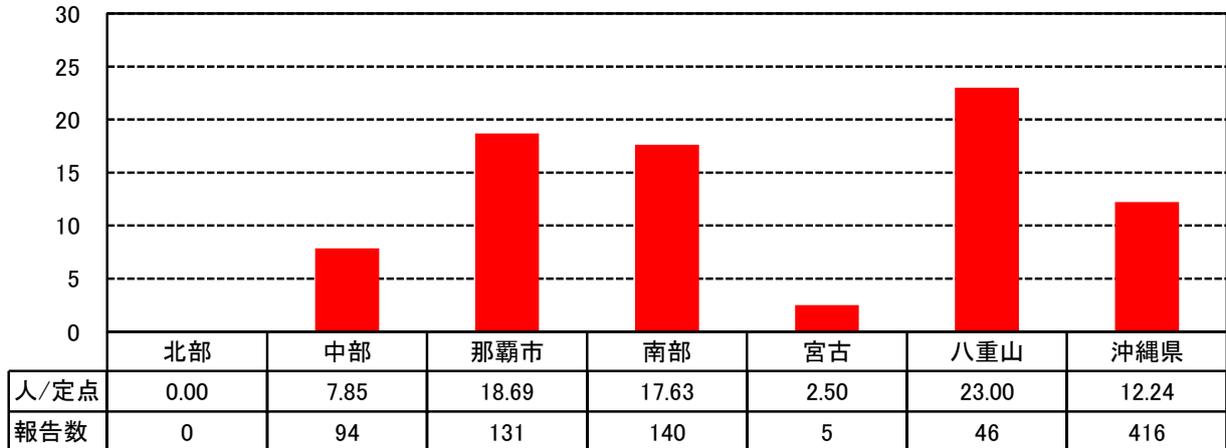
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点あたり報告数

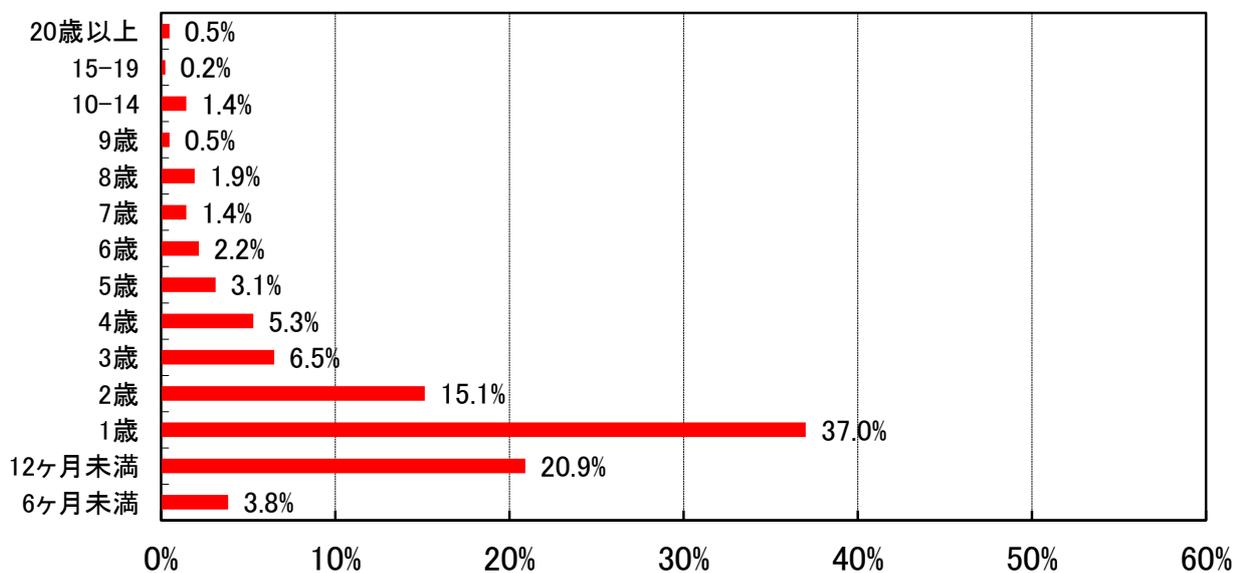


(人/定点)

保健所別発生状況（報告数及び定点あたり報告数）



年齢階級別割合（沖縄県）



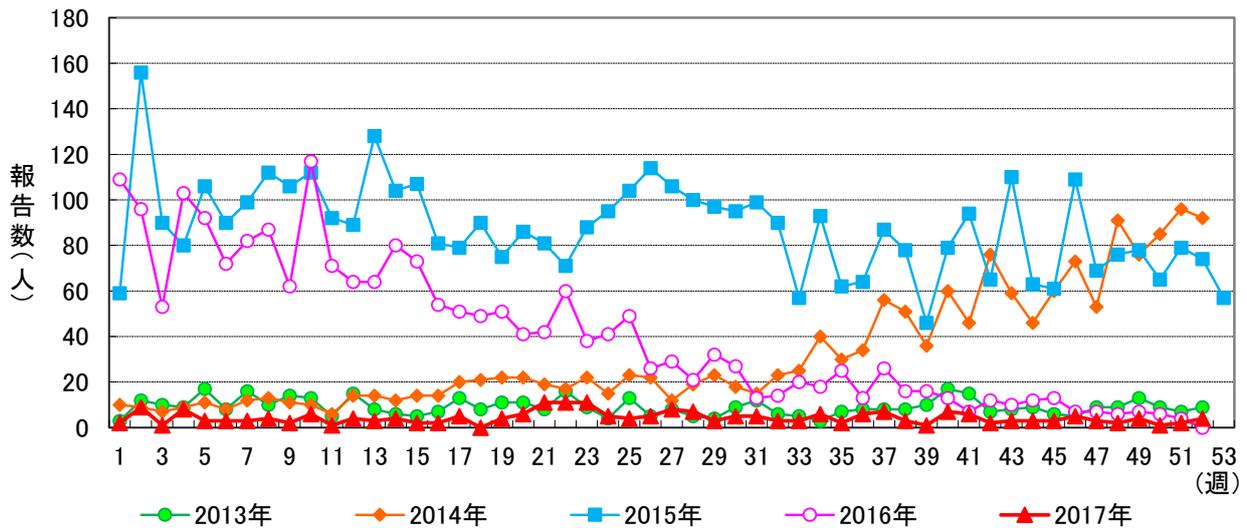
## 流行性耳下腺炎

流行性耳下腺炎は、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするムンプスウイルスによる感染症である。本疾患は全国でも毎年、3～4年周期での患者増加がみられており、本県でも概ね4年周期で増加が認められている。前回の増加期は2009年（2,295人）と2010年（3,530人）及び2015年（4,647人）と2016年（2,101人）であった。

2017年県内の患者報告数は223人、定点当たり6.56人であり、前年の流行終息後ということもあり、前年比0.11と激減した。本県の定点あたりの報告数も、年間通して全国値を下回った。

年齢別では、加齢に伴い、難聴などの合併症の発症率も高くなるといわれるが、20歳以上の報告割合（4.5%）が、全国（1.6%）に比べ高かった。

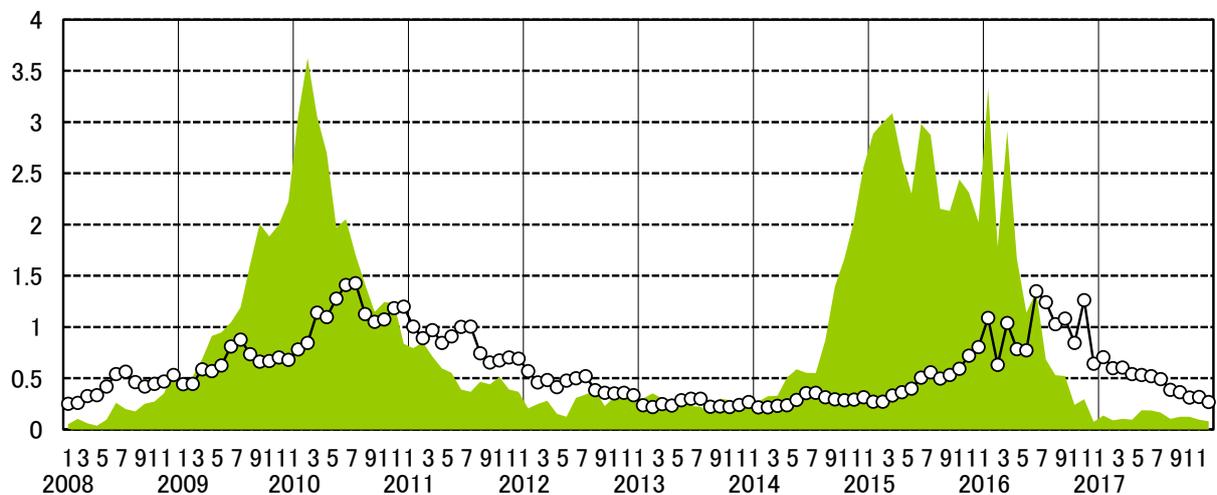
### 流行性耳下腺炎 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

### 年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国



### シーズン別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,823	472	1,672	4,647	2,101	223

